

第IV章 調査結果の分析

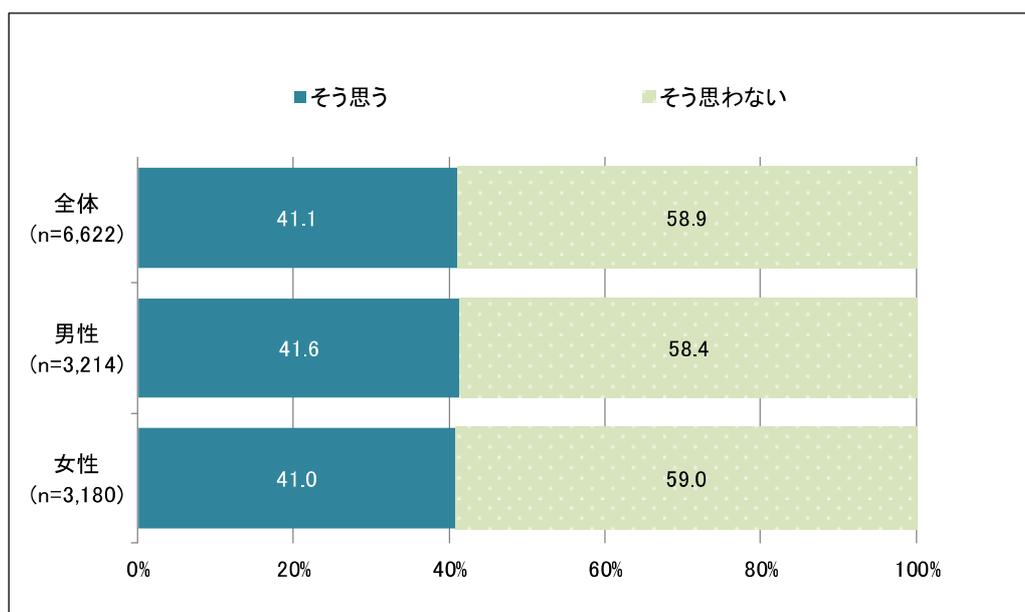
1 性別によるクロス集計結果

① 児童

A 自身に関すること

(1) 「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある (S A)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622 100.0	2722 41.1	3900 58.9
性別	男性	3214 100.0	1338 41.6	1876 58.4
	女性	3180 100.0	1304 41.0	1876 59.0



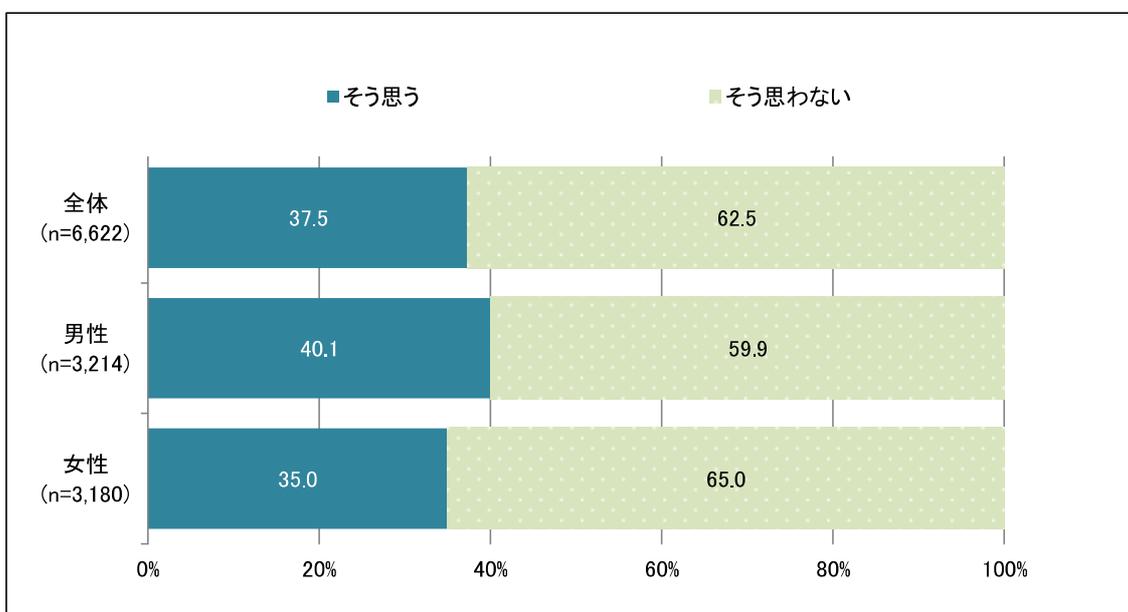
(図表IV-1-1)

○『「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある』については、全体では「そう思う」(41.1%)で4割を超えている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(41.6%)、女性では「そう思う」(41.0%)となっている。

(2) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622 100.0	2482 37.5	4140 62.5
性 別	男性	3214 100.0	1290 40.1	1924 59.9
	女性	3180 100.0	1112 35.0	2068 65.0



(図表IV-1-2)

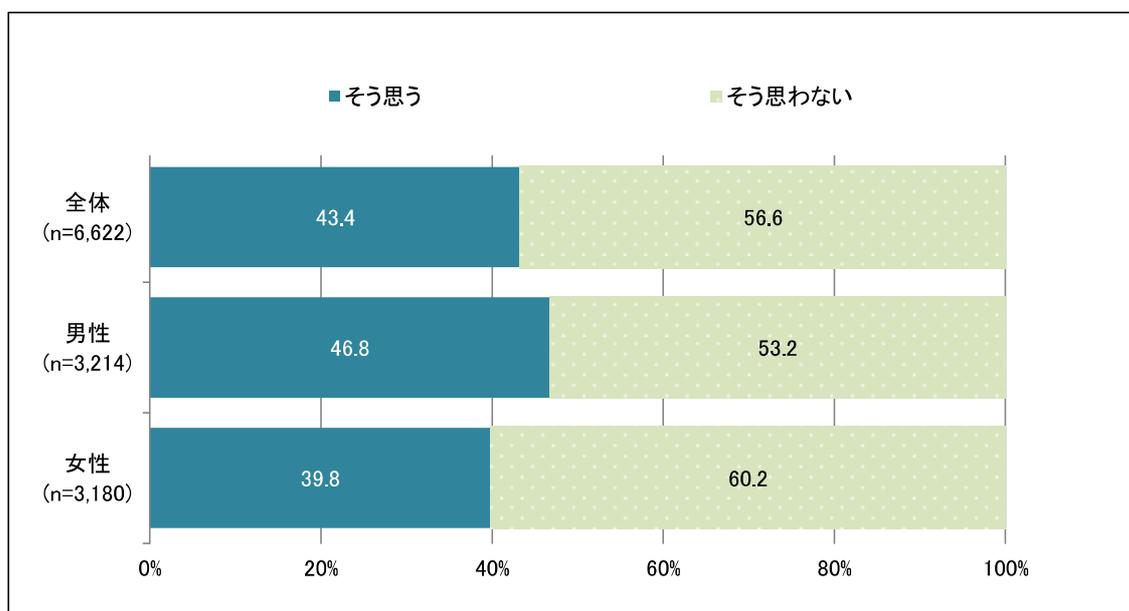
○「性別で教科の得意、不得意があると思う」については、全体では《そう思う》(37.5%)で4割近くとなっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(40.1%)、女性では《そう思う》(35.0%)となっている。

「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$) が見られた。

(3) (将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		6622 100.0	2873 43.4	3749 56.6
性 別	男性	3214 100.0	1503 46.8	1711 53.2
	女性	3180 100.0	1267 39.8	1913 60.2



(図表IV-1-3)

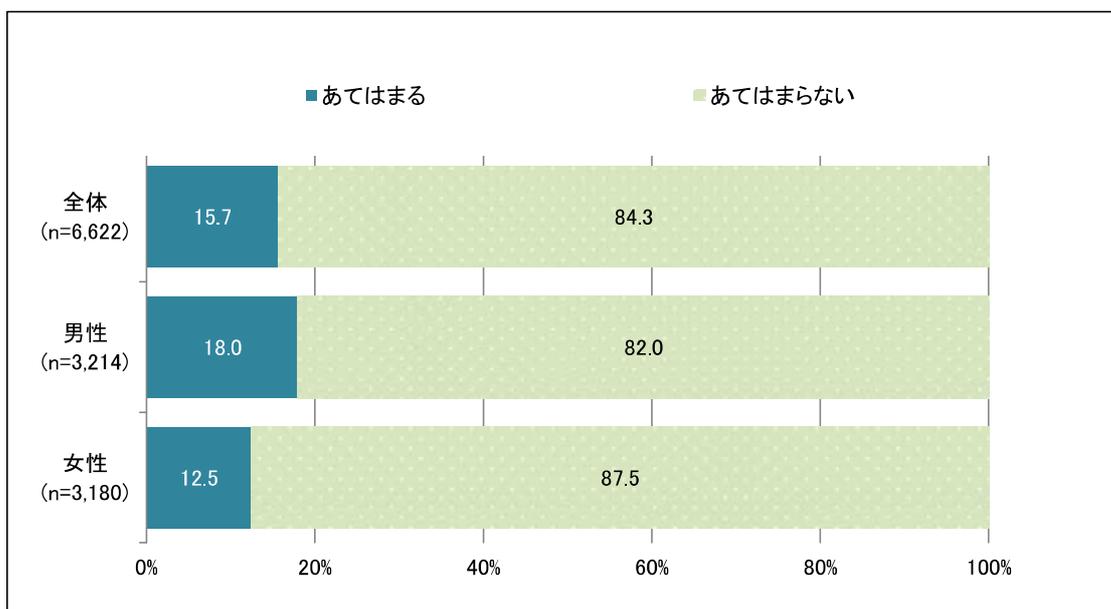
○「(将来の仕事について) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」については、全体では《そう思う》(43.4%)で4割を超えている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(46.8%)、女性では《そう思う》(39.8%)となっている。

「(将来の仕事について)性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$) が見られた。

(4) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		6622 100.0	1040 15.7	5582 84.3
性別	男性	3214 100.0	580 18.0	2634 82.0
	女性	3180 100.0	397 12.5	2783 87.5



(図表IV-1-4)

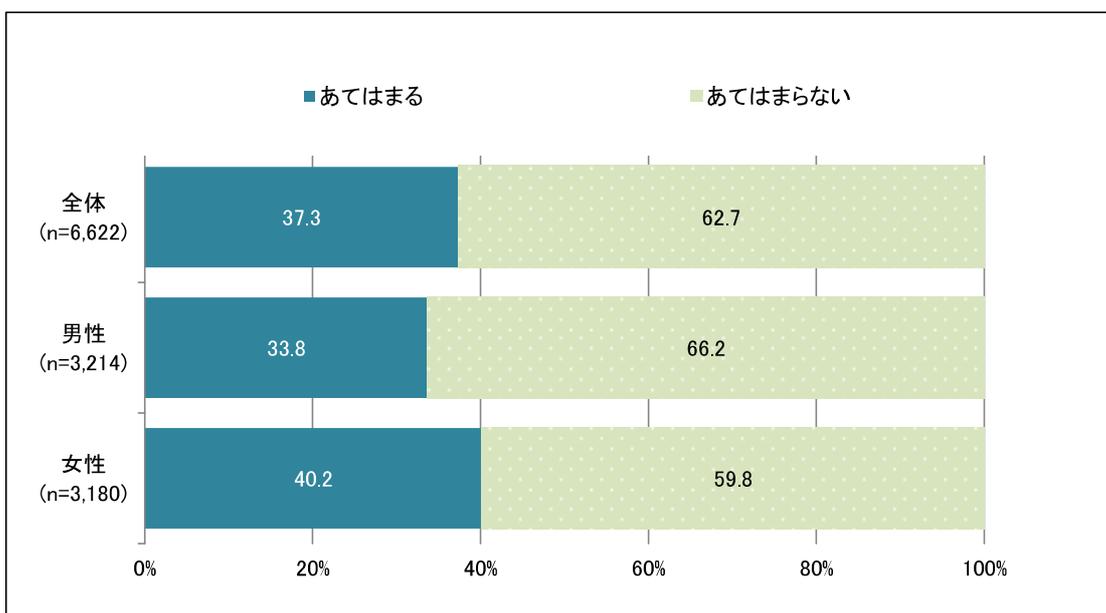
○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』については、全体では「あてはまる」(15.7%)で1割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(18.0%)、女性では「あてはまる」(12.5%)となっている。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と先生に言われたことがある』について、性別の有義差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$) が見られた。

(5) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親（保護者）に言われたことがある（SA）

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		6622 100.0	2473 37.3	4149 62.7
性別	男性	3214 100.0	1085 33.8	2129 66.2
	女性	3180 100.0	1278 40.2	1902 59.8



(図表IV-1-5)

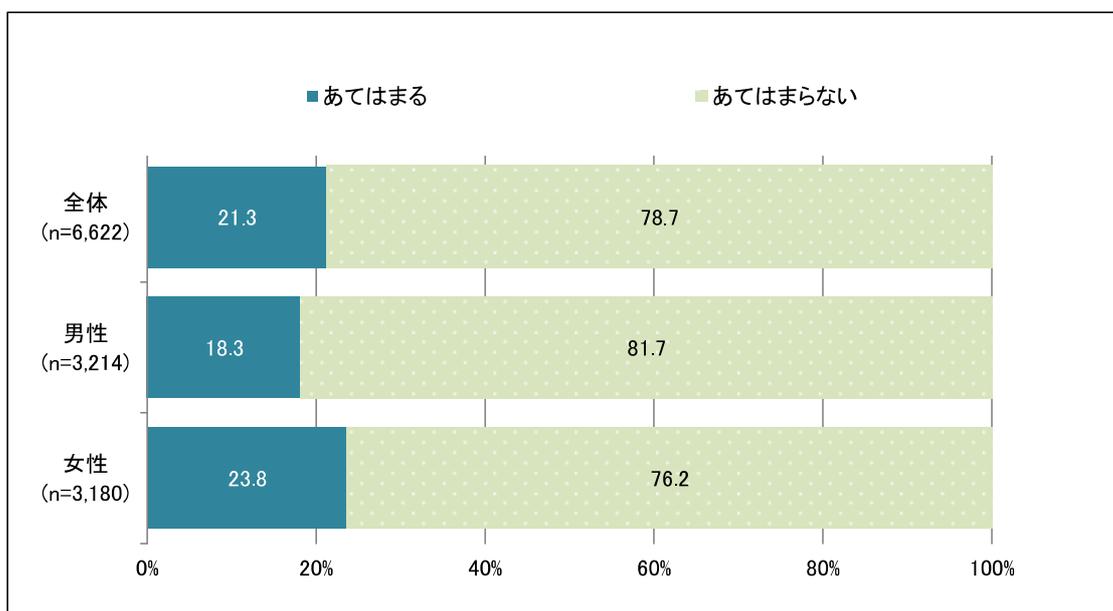
○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親（保護者）に言われたことがある』については、全体では「あてはまる」（37.3%）で4割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」（33.8%）、女性では「あてはまる」（40.2%）となっている。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と親（保護者）に言われたことがある』について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差（ $p < 0.001$ ）が見られた。

(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		6622 100.0	1413 21.3	5209 78.7
性別	男性	3214 100.0	588 18.3	2626 81.7
	女性	3180 100.0	756 23.8	2424 76.2



(図表IV-1-6)

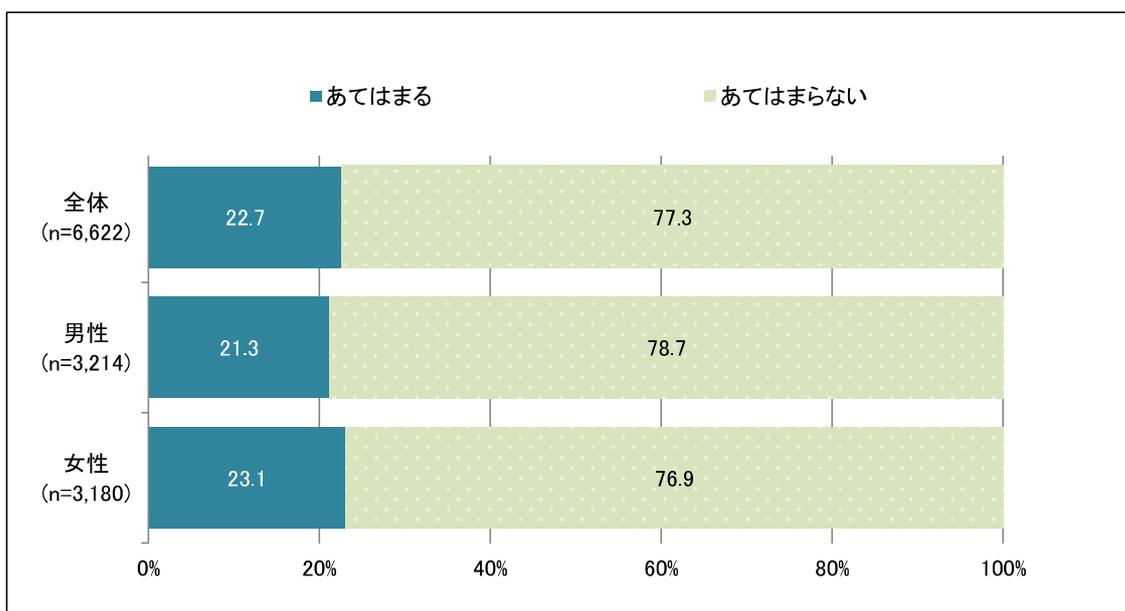
○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある』については、全体では「あてはまる」(21.3%)で2割を超えている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(18.3%)、女性では「あてはまる」(23.8%)となっている。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と祖父母や親戚など周りの大人に言われたことがある』について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差(p<0.001)が見られた。

(7) 性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		6622 100.0	1501 22.7	5121 77.3
性 別	男性	3214 100.0	683 21.3	2531 78.7
	女性	3180 100.0	735 23.1	2445 76.9



(図表IV-1-7)

○「性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある」については、全体では《あてはまる》(22.7%)で2割を超えている。

性別で見ると、《あてはまる》について、男性(21.3%)、女性(23.1%)ともに2割を超えている。

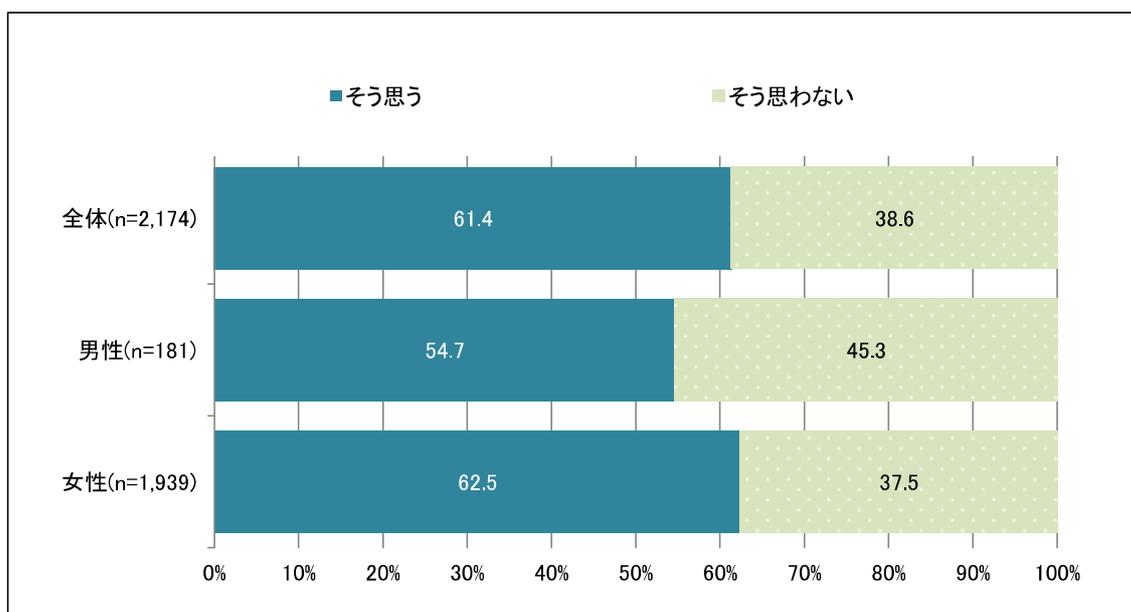
「性別を理由に、思ったことが言えなかったことがある」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

② 保護者

A 家庭に関すること

(1) 育児は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174	1335	839
		100.0	61.4	38.6
性別	男性	181	99	82
	女性	1939	1211	728
		100.0	62.5	37.5



(図表IV-1-8)

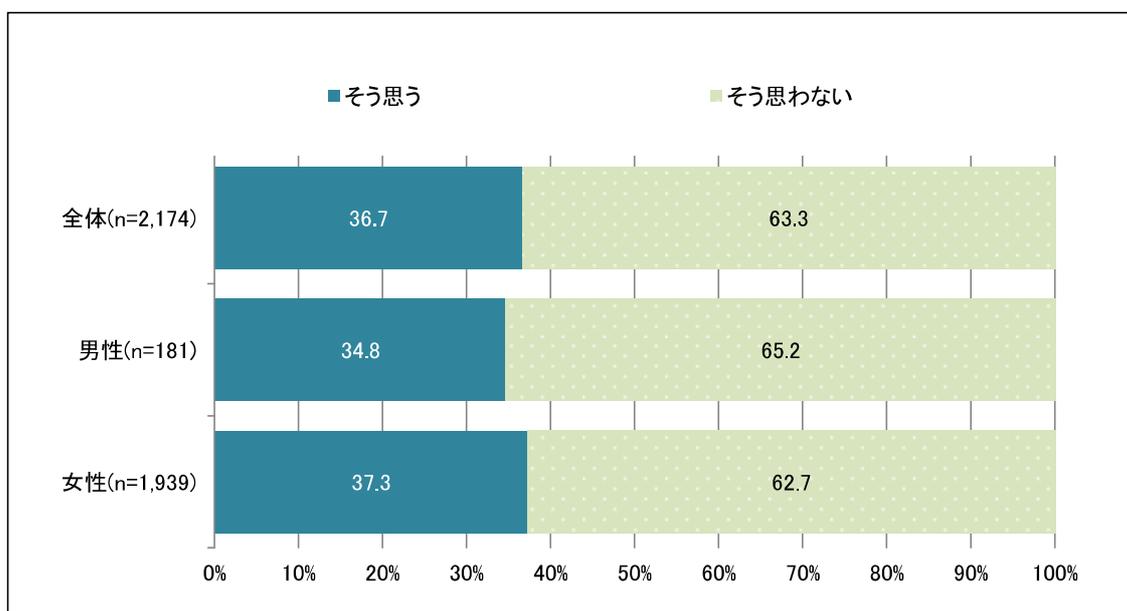
○「育児は女性の方が向いていると思う」については、全体では《そう思う》(61.4%)が6割を超えている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(54.7%)、女性では《そう思う》(62.5%)となっている。

「育児は女性の方が向いていると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.01$)が見られた。

(2) 家事は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	798 36.7	1376 63.3
性別	男性	181 100.0	63 34.8	118 65.2
	女性	1939 100.0	724 37.3	1215 62.7



(図表IV-1-9)

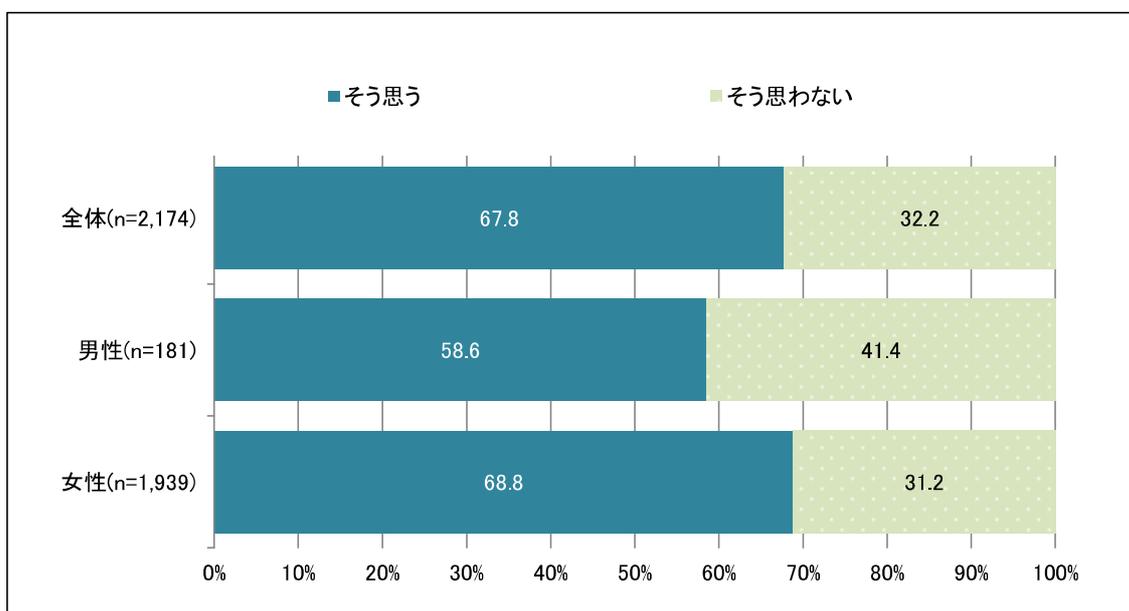
○「家事は女性の方が向いていると思う」については、全体では「そう思う」(36.7%)で4割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(34.8%)、女性では「そう思う」(37.3%)となっている。

「家事は女性の方が向いていると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

(3) 「男性だから」「女性だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	1474 67.8	700 32.2
性別	男性	181 100.0	106 58.6	75 41.4
	女性	1939 100.0	1335 68.8	604 31.2



(図表IV-1-10)

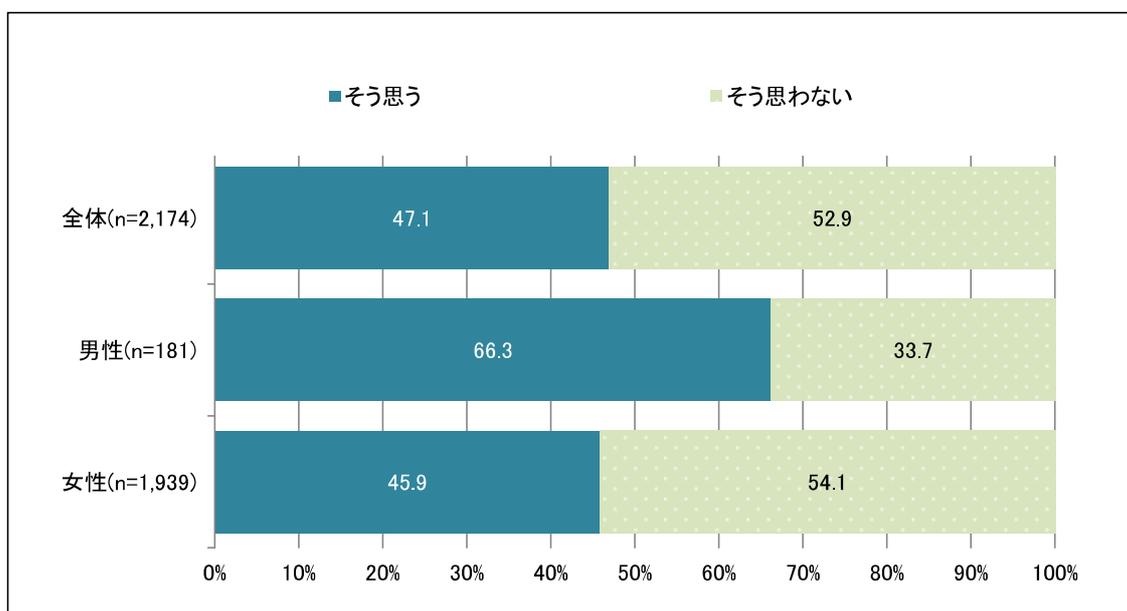
○『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』については、全体では《そう思う》(67.8%)で7割近くとなっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(58.6%)、女性では《そう思う》(68.8%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

(4) 服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	1023 47.1	1151 52.9
性別	男性	181 100.0	120 66.3	61 33.7
	女性	1939 100.0	890 45.9	1049 54.1



(図表IV-1-11)

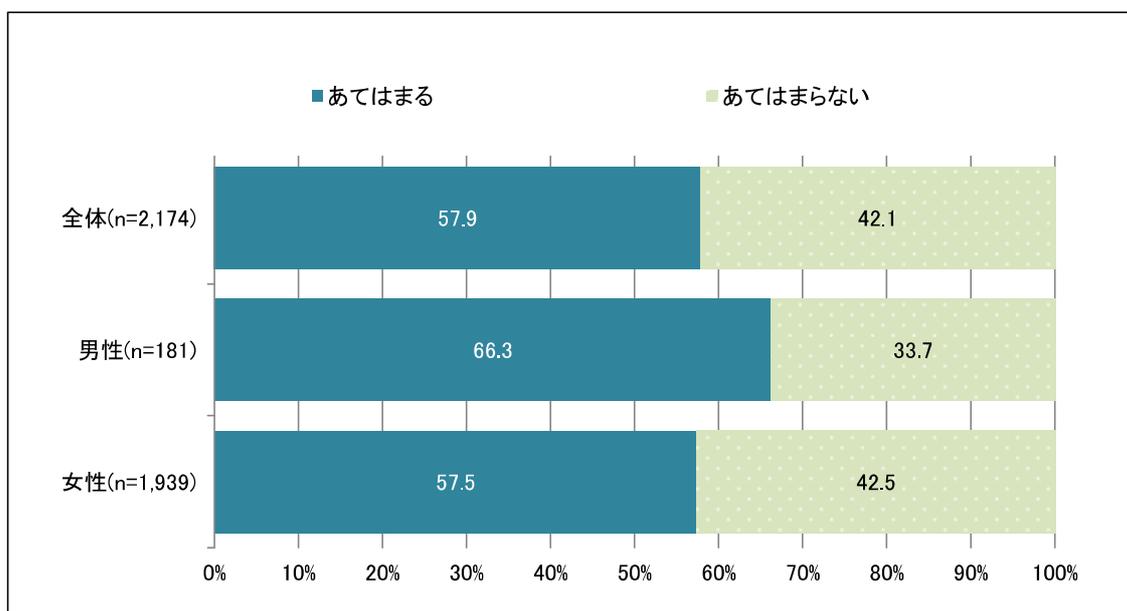
○『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』については、全体では「そう思う」(47.1%)で5割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(66.3%)、女性では「そう思う」(45.9%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、性別の有義差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

(5) 子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	1258 57.9	916 42.1
性別	男性	181 100.0	120 66.3	61 33.7
	女性	1939 100.0	1114 57.5	825 42.5



(図表IV-1-1-2)

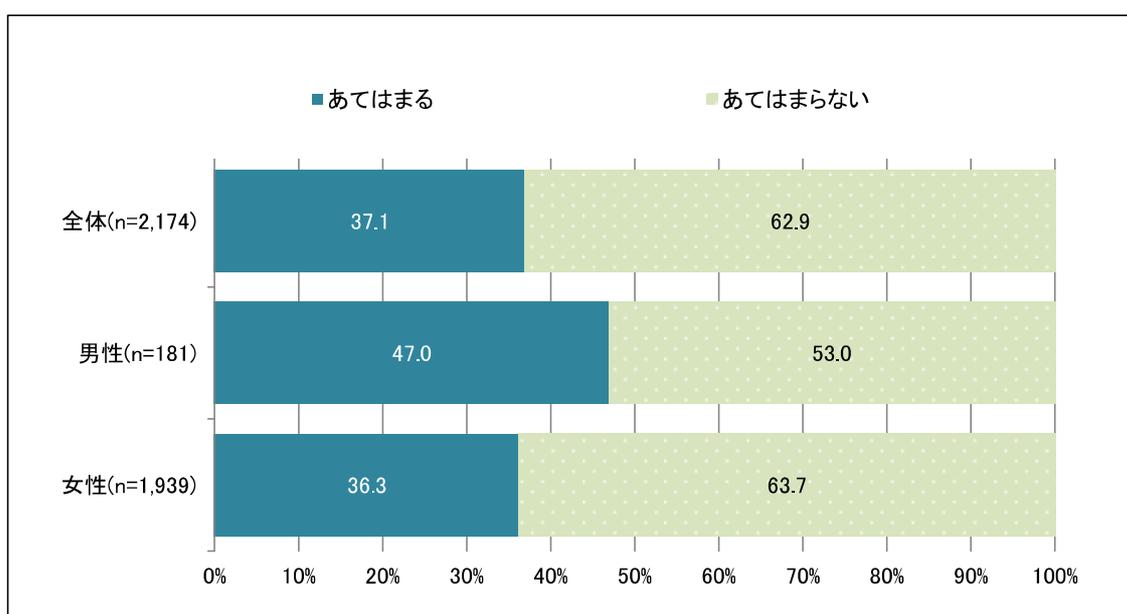
○「子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる」については、全体では「あてはまる」(57.9%)で6割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(66.3%)、女性では「あてはまる」(57.5%)となっている。

「子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	806 37.1	1368 62.9
性別	男性	181 100.0	85 47.0	96 53.0
	女性	1939 100.0	704 36.3	1235 63.7



(図表IV-1-13)

○『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』については、全体では「あてはまる」(37.1%)で4割近くとなっている。

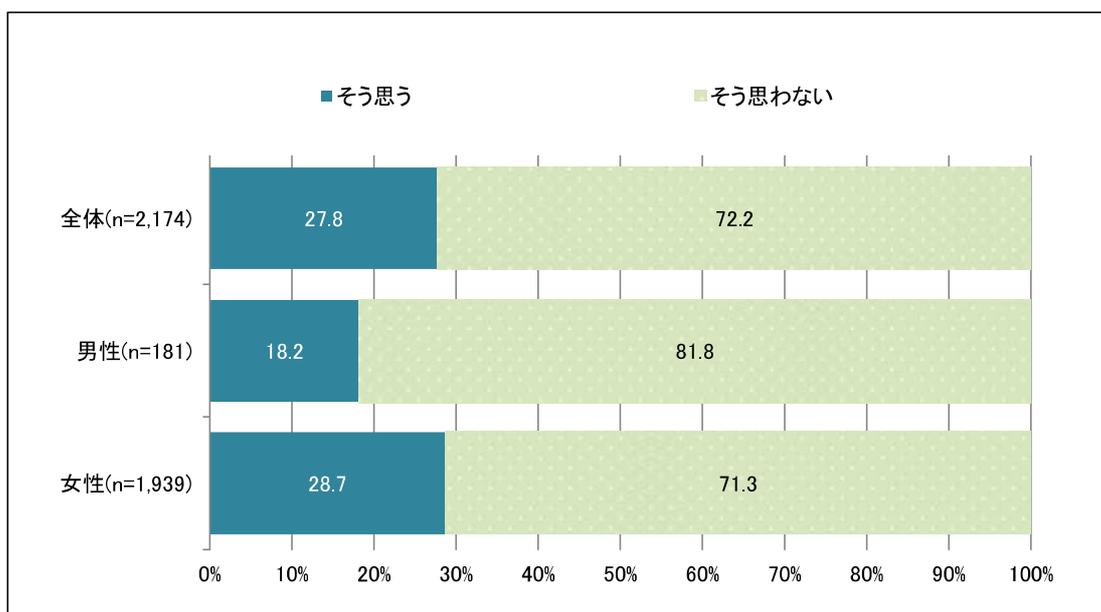
性別で見ると、男性では「あてはまる」(47.0%)、女性では「あてはまる」(36.3%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

B 教員に関すること

(7) 子どもの担任の先生の性別が気になってしまう (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	605 27.8	1569 72.2
性別	男性	181 100.0	33 18.2	148 81.8
	女性	1939 100.0	557 28.7	1382 71.3



(図表IV-1-14)

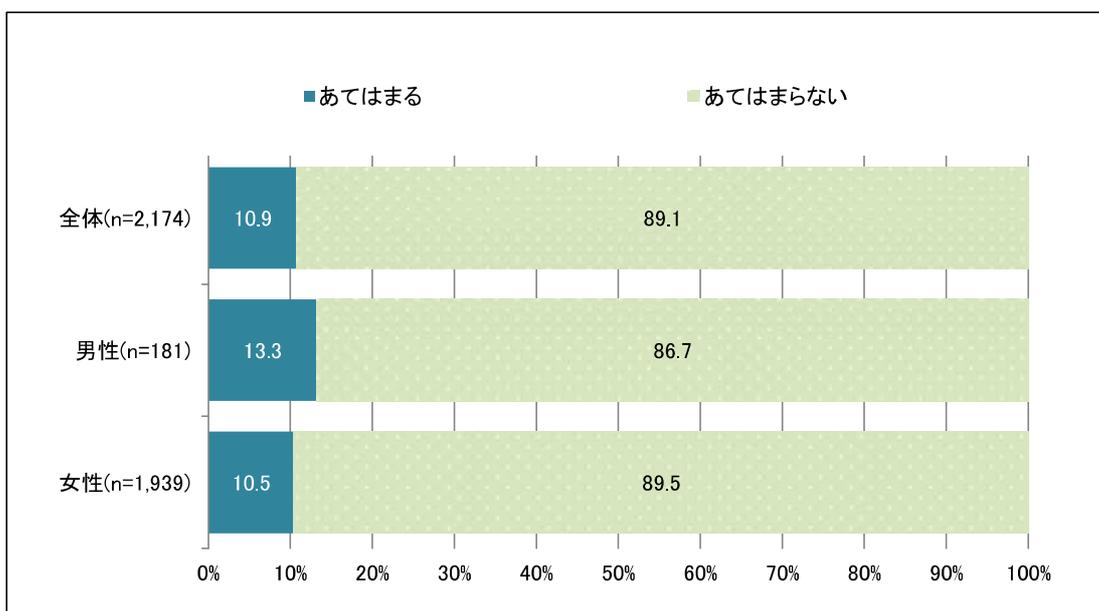
○「子どもの担任の先生の性別が気になってしまう」については、全体では「そう思う」(27.8%)で3割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(18.2%)、女性では「そう思う」(28.7%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「子どもの担任の先生の性別が気になってしまう」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

(8) 学校での児童の役割分担が性別で割り振られていることがあった (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	236 10.9	1938 89.1
性 別	男性	181 100.0	24 13.3	157 86.7
	女性	1939 100.0	204 10.5	1735 89.5



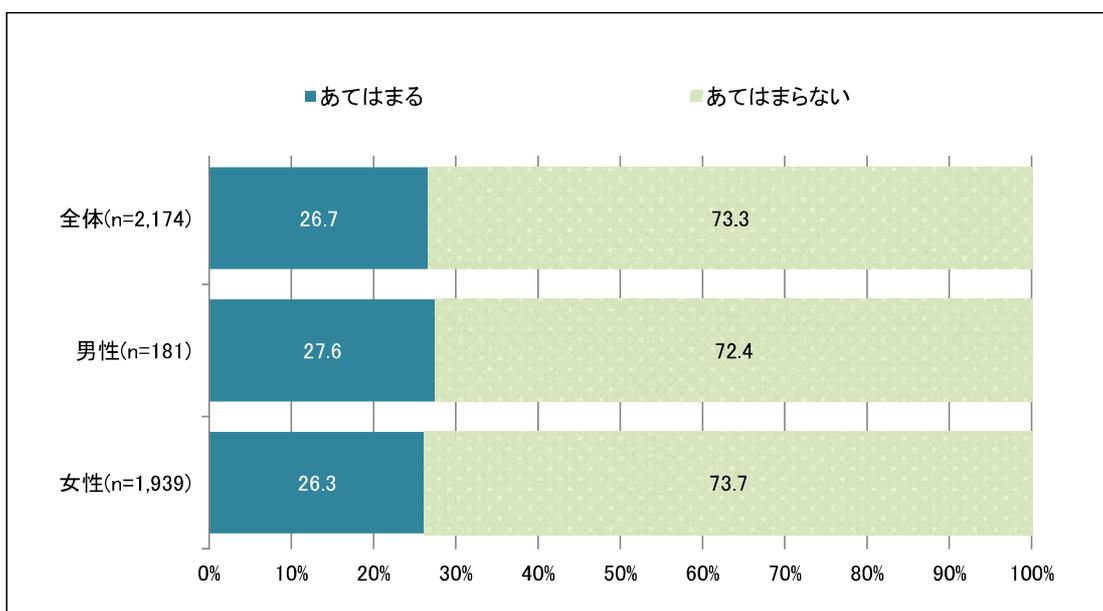
(図表IV-1-15)

○「学校での児童の役割分担が性別で割り振られていることがあった」については、全体では「あてはまる」(10.9%)でほぼ1割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(13.3%)、女性では「あてはまる」(10.5%)となっている。

(9) 教員の性別により、児童への接し方に違いがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	581 26.7	1593 73.3
性別	男性	181 100.0	50 27.6	131 72.4
	女性	1939 100.0	510 26.3	1429 73.7



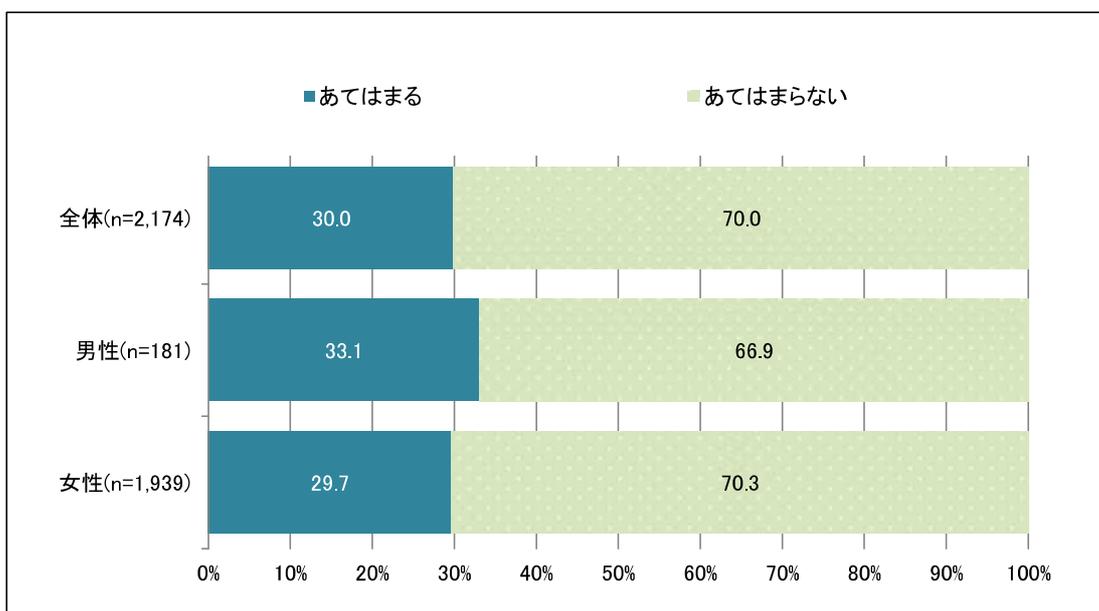
(図表IV-1-16)

○「教員の性別により、児童への接し方に違いがある」については、全体では「あてはまる」(26.7%)で3割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(27.6%)、女性では「あてはまる」(26.3%)となっている。

(10) 児童の性別により、教員の接し方に違いがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	653 30.0	1521 70.0
性別	男性	181 100.0	60 33.1	121 66.9
	女性	1939 100.0	576 29.7	1363 70.3



(図表IV-1-17)

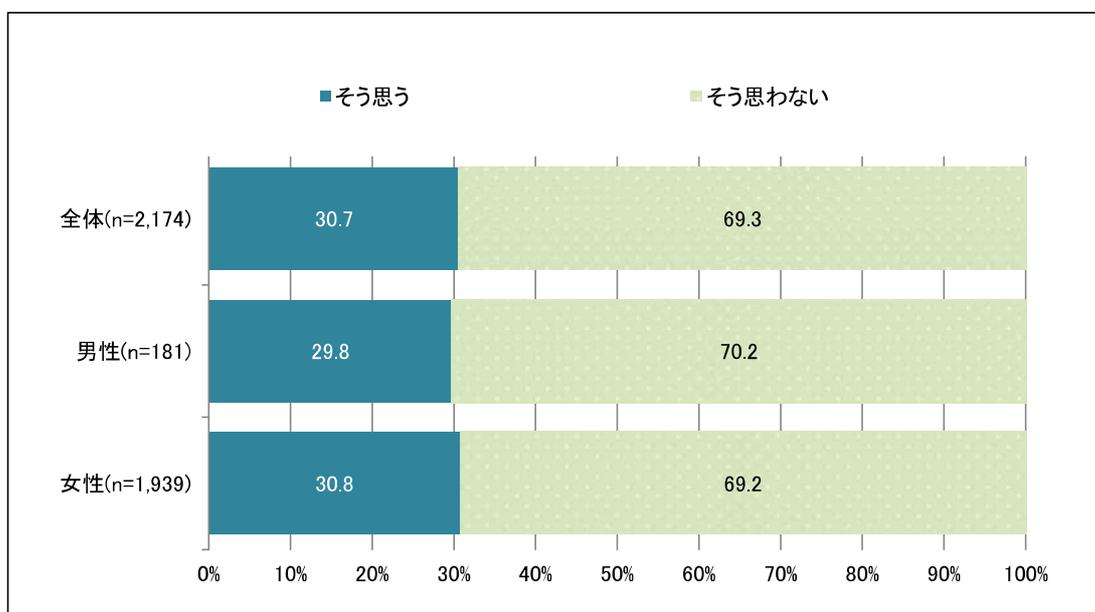
○「児童の性別により、教員の接し方に違いがある」については、全体では「あてはまる」(30.0%)で3割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(33.1%)、女性では「あてはまる」(29.7%)となっている。

C 児童に関すること

(11) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	668 30.7	1506 69.3
性別	男性	181 100.0	54 29.8	127 70.2
	女性	1939 100.0	598 30.8	1341 69.2



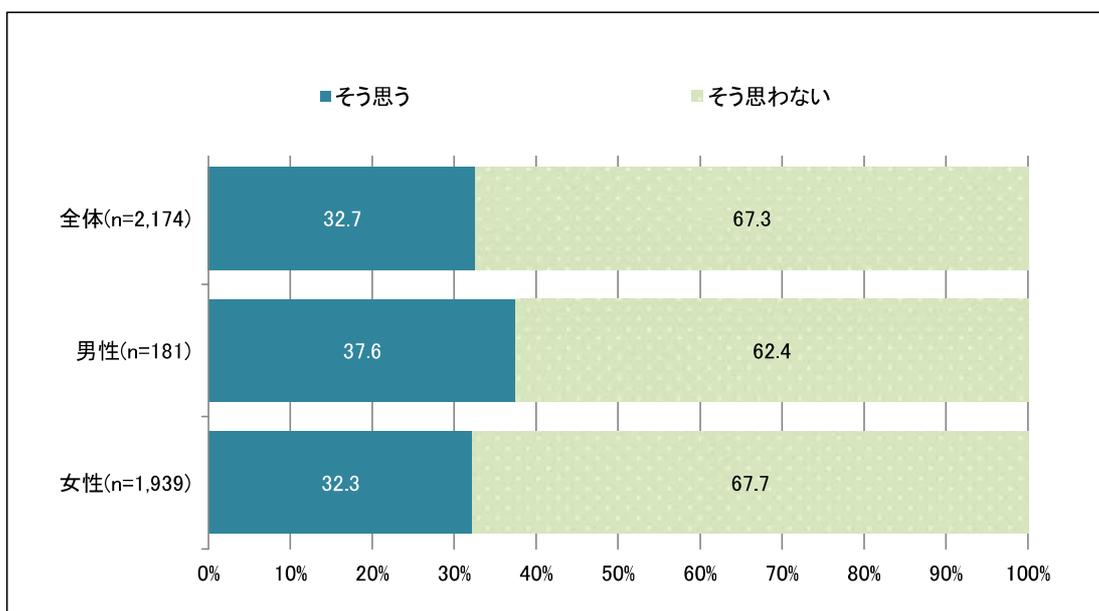
(図表IV-1-18)

○「性別で教科の得意、不得意があると思う」については、全体では《そう思う》(30.7%)でほぼ3割となっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(29.8%)、女性では《そう思う》(30.8%)となっている。

(12) 性別で子どもの進路を考えることがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	711 32.7	1463 67.3
性別	男性	181 100.0	68 37.6	113 62.4
	女性	1939 100.0	626 32.3	1313 67.7



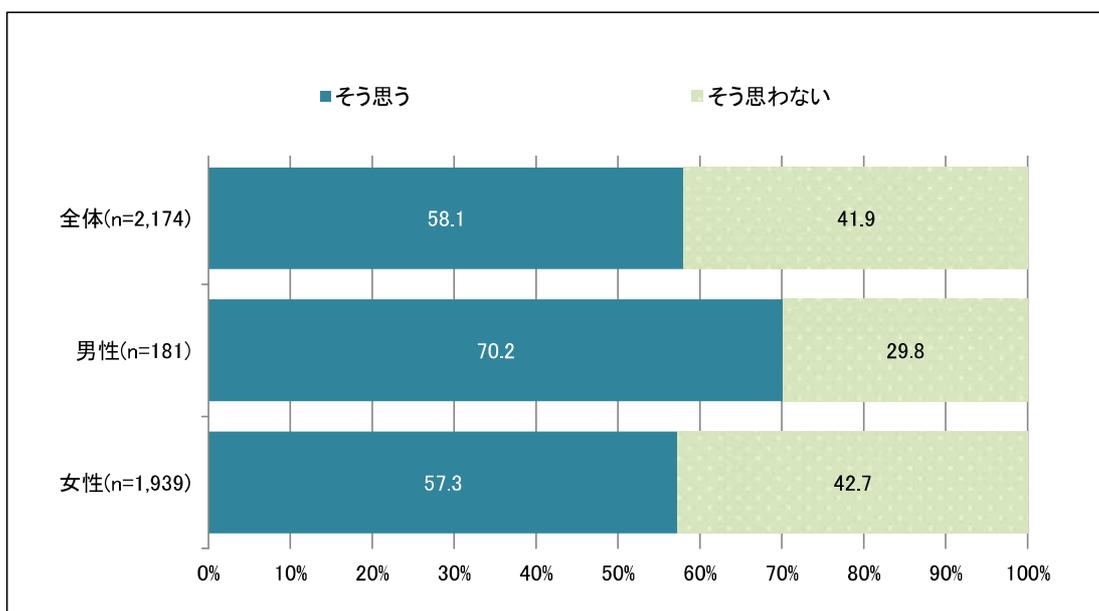
(図表IV-1-19)

○「性別で子どもの進路を考えることがある」については、全体では「そう思う」(32.7%)で3割を超えている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(37.6%)、女性では「そう思う」(32.3%)となっている。

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	1264 58.1	910 41.9
性別	男性	181 100.0	127 70.2	54 29.8
	女性	1939 100.0	1111 57.3	828 42.7



(図表IV-1-20)

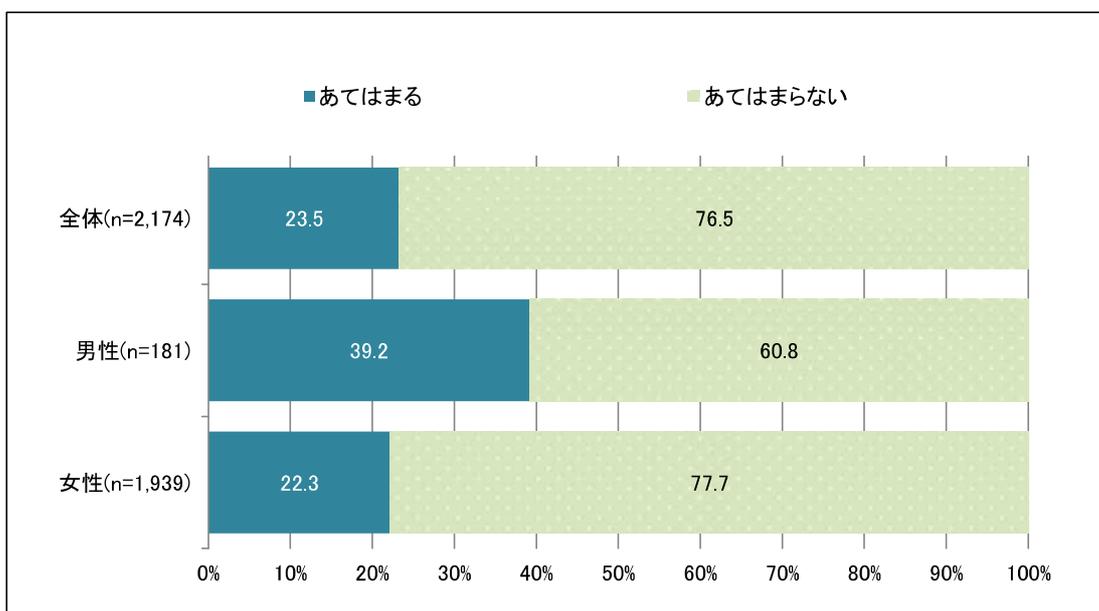
○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」については、全体では「そう思う」(58.1%)が6割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(70.2%)、女性では「そう思う」(57.3%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(14) 子供と接する時に、性別を意識して言動を変えている (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	510 23.5	1664 76.5
性別	男性	181 100.0	71 39.2	110 60.8
	女性	1939 100.0	432 22.3	1507 77.7



(図表IV-1-2-1)

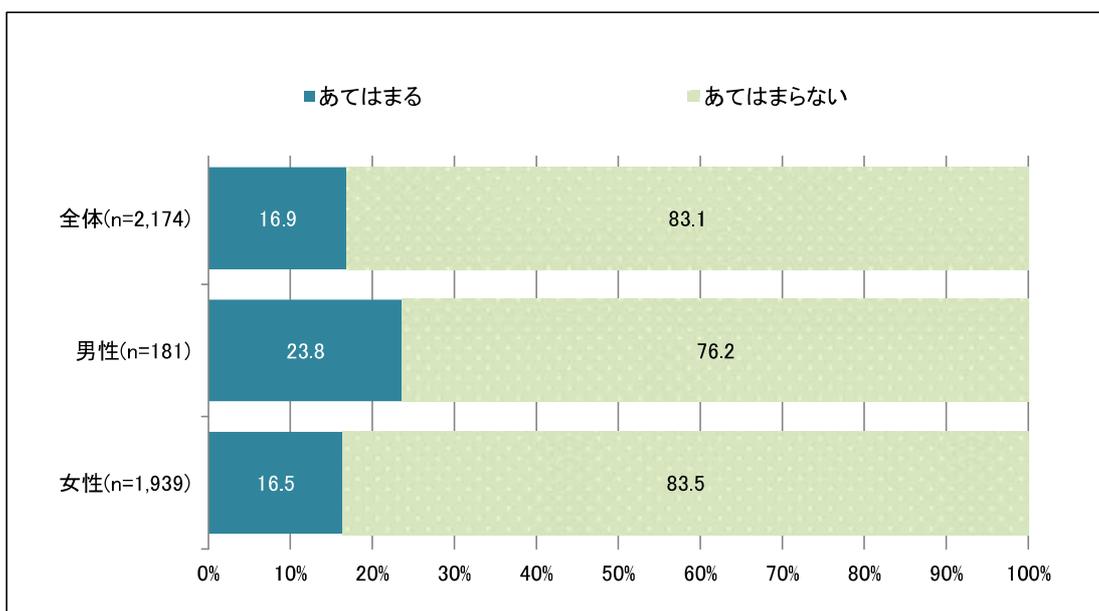
○「子供と接する時に、性別を意識して言動を変えている」については、全体では「あてはまる」(23.5%)で2割を超えている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(39.2%)、女性では「あてはまる」(22.3%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「子供と接する時に、性別を意識して言動を変えている」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

(15) 性別で子どもの習い事を選んでいる (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	368 16.9	1806 83.1
性 別	男性	181 100.0	43 23.8	138 76.2
	女性	1939 100.0	319 16.5	1620 83.5



(図表IV-1-22)

○「性別で子どもの習い事を選んでいる」については、全体では「あてはまる」(16.9%)で2割近くとなっている。

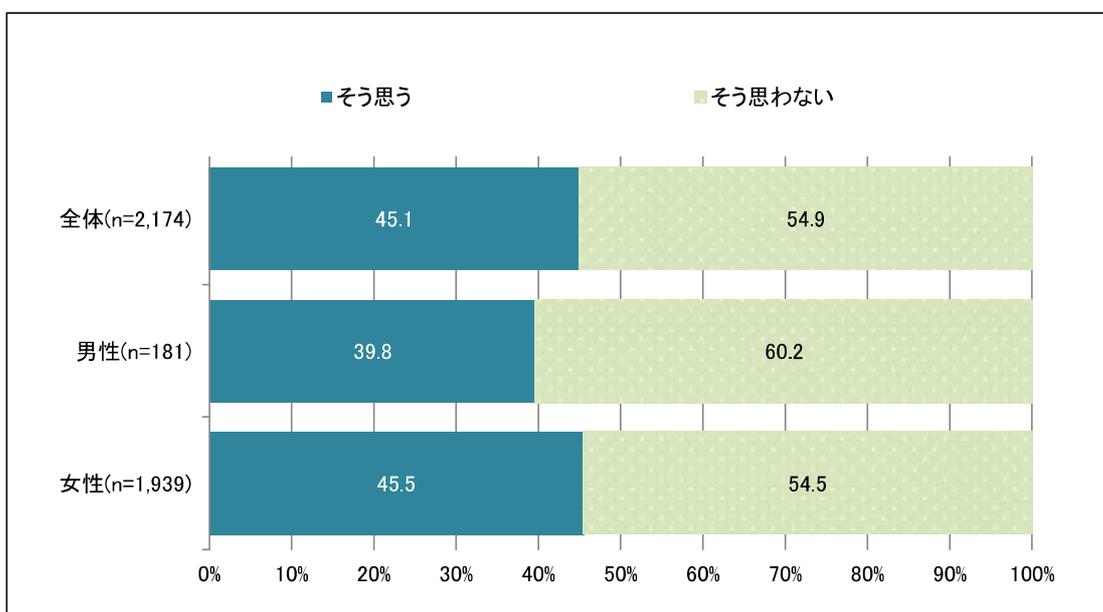
性別で見ると、男性では「あてはまる」(23.8%)、女性では「あてはまる」(16.5%)となっている。

「性別で子どもの習い事を選んでいる」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

D 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度など

(16) 子どもとかかわるなかで無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している（SA）

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174 100.0	980 45.1	1194 54.9
性別	男性	181 100.0	72 39.8	109 60.2
	女性	1939 100.0	882 45.5	1057 54.5



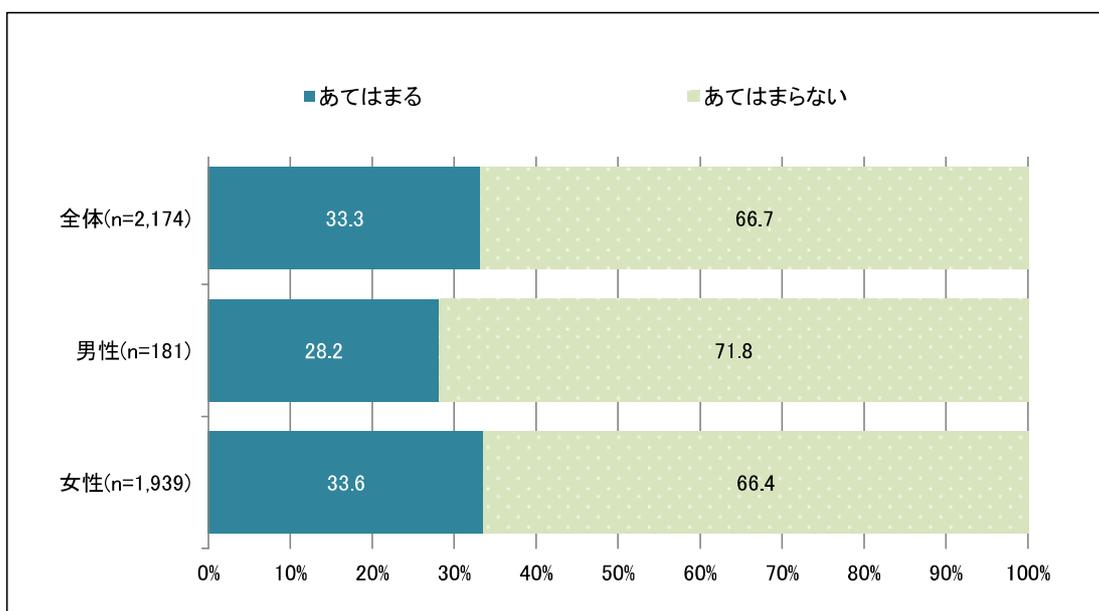
(図表IV-1-23)

○「子どもとかかわるなかで無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している」については、全体では《そう思う》（45.1%）で4割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》（39.8%）、女性では《そう思う》（45.5%）となっている。

(17) 家族間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について話をしたことがある(SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	724 33.3	1450 66.7
性別	男性	181 100.0	51 28.2	130 71.8
	女性	1939 100.0	652 33.6	1287 66.4



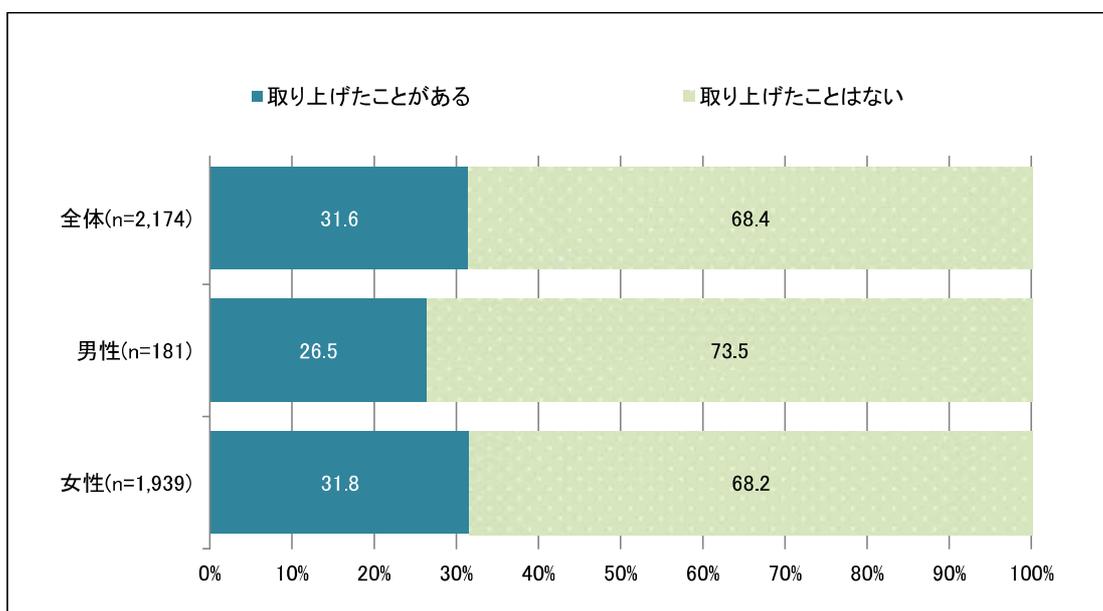
(図表IV-1-24)

○「家族間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について話をしたことがある」については、全体では「あてはまる」(33.3%)で3割を超えている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(28.2%)、女性では「あてはまる」(33.6%)となっている。

(18) 子どもとの間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を取り上げたことがある(SA)

		計	が取り上げたこと	は取り上げなかったこと
全 体		2174 100.0	688 31.6	1486 68.4
性別	男性	181 100.0	48 26.5	133 73.5
	女性	1939 100.0	616 31.8	1323 68.2



(図表IV-1-25)

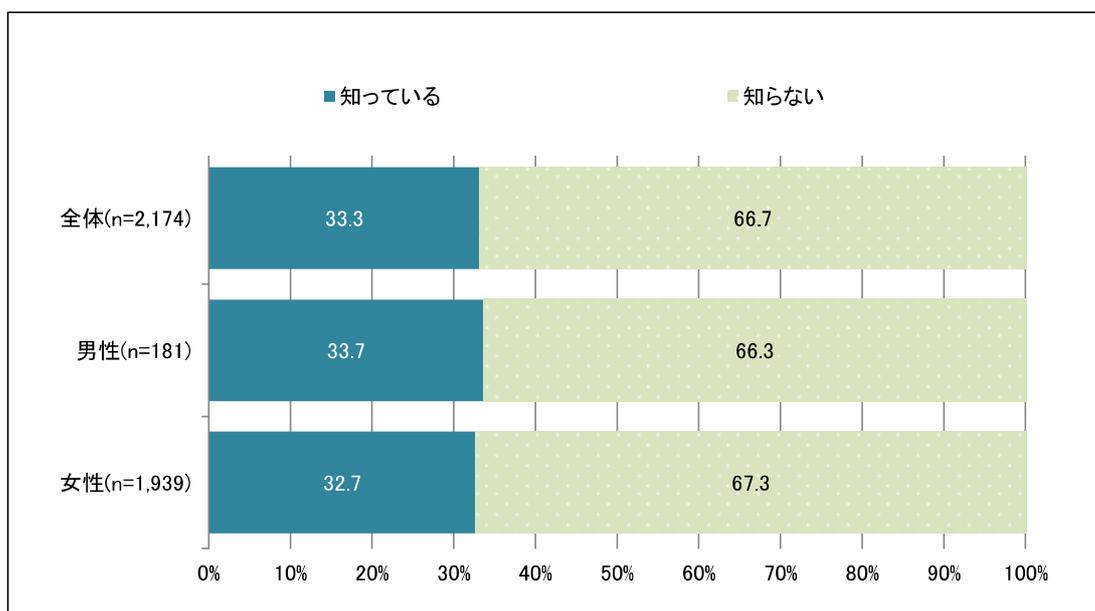
○「子どもとの間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を取り上げたことがある」については、全体では「取り上げたことがある」(31.6%)で3割を超えている。

性別で見ると、男性では「取り上げたことがある」(26.5%)、女性では「取り上げたことがある」(31.8%)となっている。

「子どもとの間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を取り上げたことがある」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.05$)が見られた。

(19) 無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) について、どの程度知っていますか (SA)

		計	知っている	知らない
全 体		2174 100.0	723 33.3	1451 66.7
性別	男性	181 100.0	61 33.7	120 66.3
	女性	1939 100.0	635 32.7	1304 67.3



(図表IV-1-26)

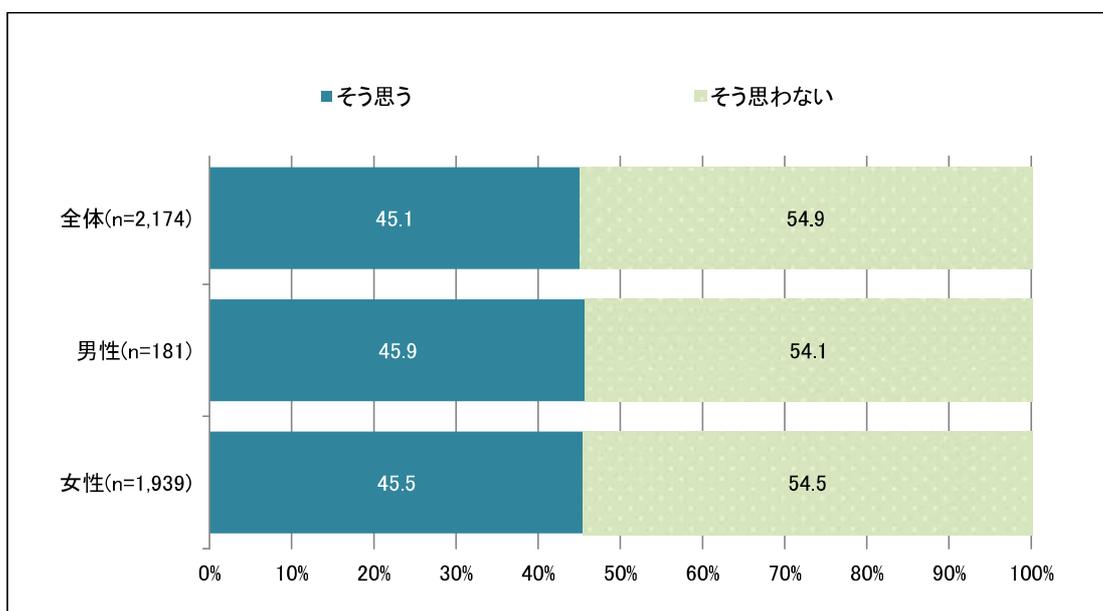
○「無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) について、どの程度知っていますか」については、全体では「知っている」(33.3%)で3割を超えている。

性別で見ると、男性では「知っている」(33.7%)、女性では「知っている」(32.7%)となっている。

「無意識の思い込み (アンコンシャス・バイアス) について、どの程度知っていますか」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$)が見られた。

(20) (自己啓発として) 無意識の思い込みについて、保護者講演会などがあれば受講したいか (SA)

		計	そう 思う	そう 思わ ない
全 体		2174 100.0	981 45.1	1193 54.9
性 別	男性	181 100.0	83 45.9	98 54.1
	女性	1939 100.0	883 45.5	1056 54.5



(図表IV-1-27)

○ 「(自己啓発として) 無意識の思い込みについて、保護者講演会などがあれば受講したいか」については、全体では《そう思う》(45.1%)で4割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(45.9%)、女性では《そう思う》(45.5%)となっている。

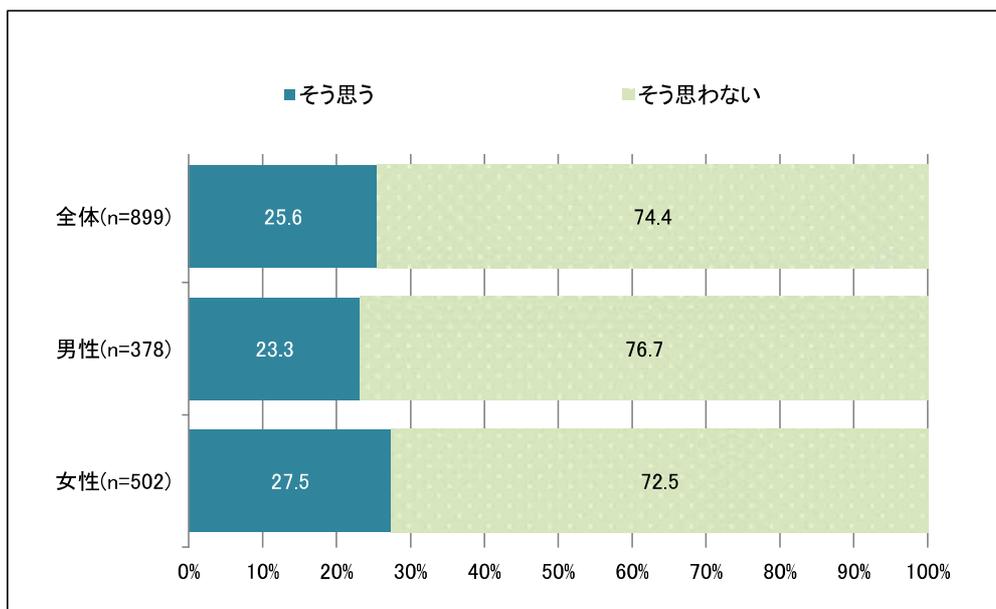
「(自己啓発として) 無意識の思い込みについて、保護者講演会などがあれば受講したいか」については、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$)が見られた。

③ 教員

A 自分のキャリア・生活に関すること

(1) 男性の方が管理職に向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	230 25.6	669 74.4
性別	男性	378 100.0	88 23.3	290 76.7
	女性	502 100.0	138 27.5	364 72.5



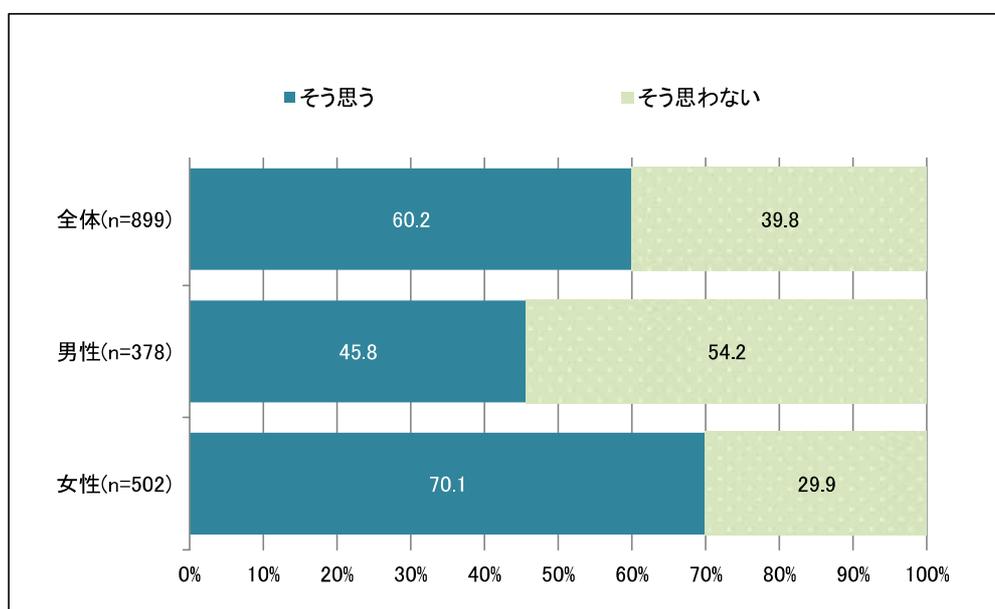
(図表IV-1-28)

○「男性の方が管理職に向いていると思う」については、全体では「そう思う」(25.6%)で2割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(23.3%)、女性では「そう思う」(27.5%)となっている。

(2) 将来管理職になるのは無理だと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	541 60.2	358 39.8
性別	男性	378 100.0	173 45.8	205 54.2
	女性	502 100.0	352 70.1	150 29.9



(図表IV-1-29)

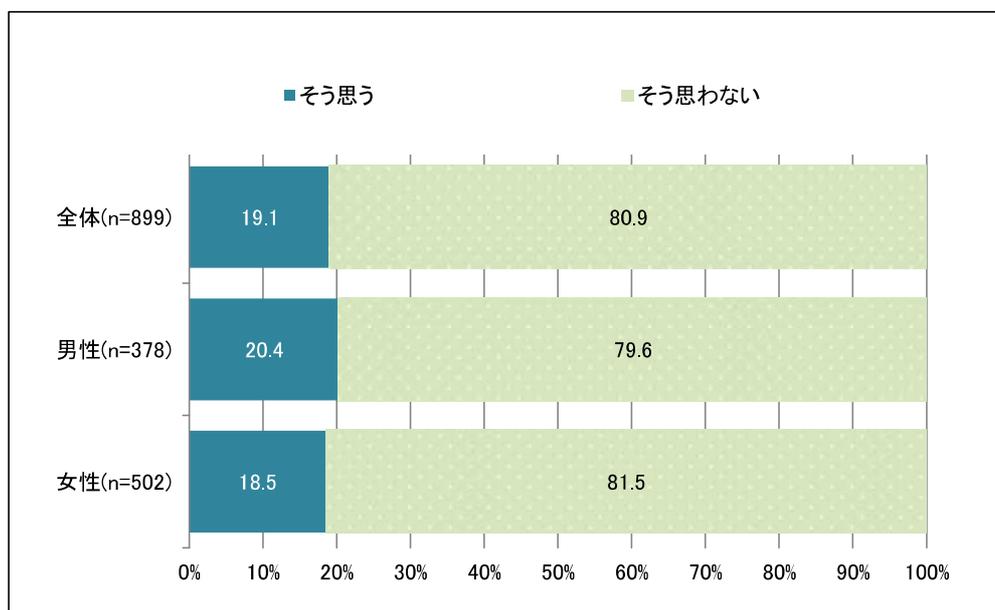
○「将来管理職になるのは無理だと思う」については、全体では「そう思う」(60.2%)が6割となっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(45.8%)、女性では「そう思う」(70.1%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「将来管理職になるのは無理だと思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$) が見られた。

(3) プライベートより仕事を優先したほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	172 19.1	727 80.9
性別	男性	378 100.0	77 20.4	301 79.6
	女性	502 100.0	93 18.5	409 81.5



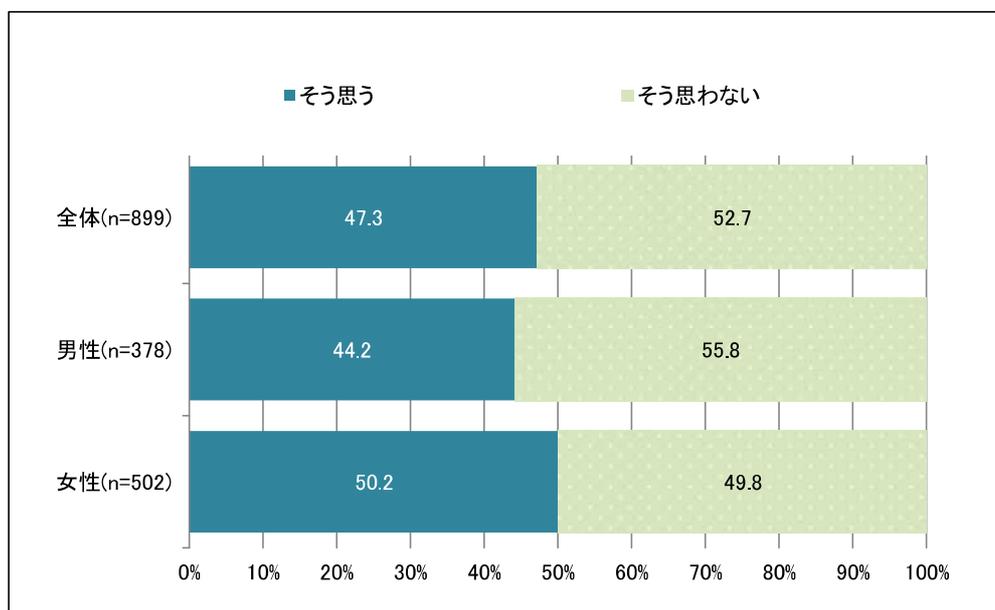
(図表IV-1-30)

○「プライベートより仕事を優先したほうがいいと思う」については、全体では「そう思う」(19.1%)でほぼ2割となっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(20.4%)、女性では「そう思う」(18.5%)となっている。

(4) 「男性だから」「女性だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	425 47.3	474 52.7
性別	男性	378 100.0	167 44.2	211 55.8
	女性	502 100.0	252 50.2	250 49.8



(図表IV-1-31)

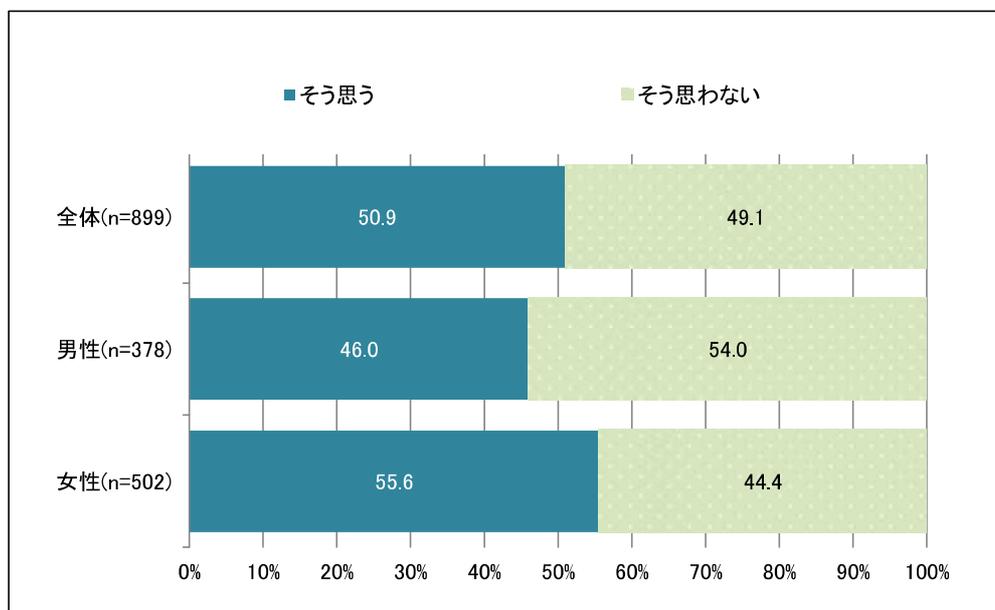
○『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』については、全体では「そう思う」(47.3%)で5割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(44.2%)、女性では「そう思う」(50.2%)となっている。

B 校務など教員の職務に関すること

(5) 育児休業は女性が取ったほうが良いと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	458 50.9	441 49.1
性別	男性	378 100.0	174 46.0	204 54.0
	女性	502 100.0	279 55.6	223 44.4



(図表IV-1-32)

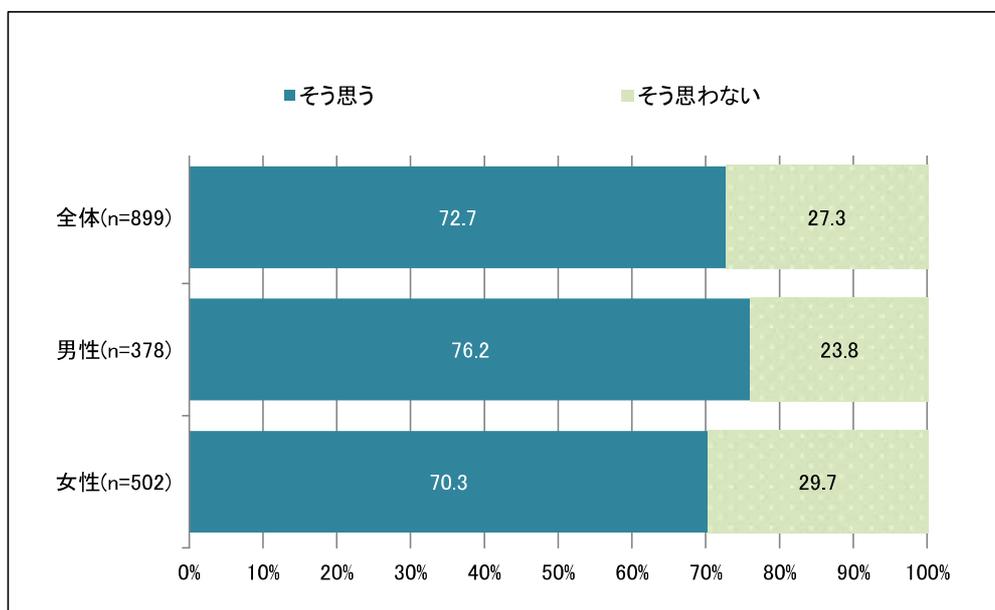
○「育児休業は女性が取ったほうが良いと思う」については、全体では「そう思う」(50.9%)でほぼ5割となっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(46.0%)、女性では「そう思う」(55.6%)となっている。

「育児休業は女性が取ったほうが良いと思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(6) 子育て中の男性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899	654	245
		100.0	72.7	27.3
性別	男性	378	288	90
	女性	502	353	149
		100.0	70.3	29.7



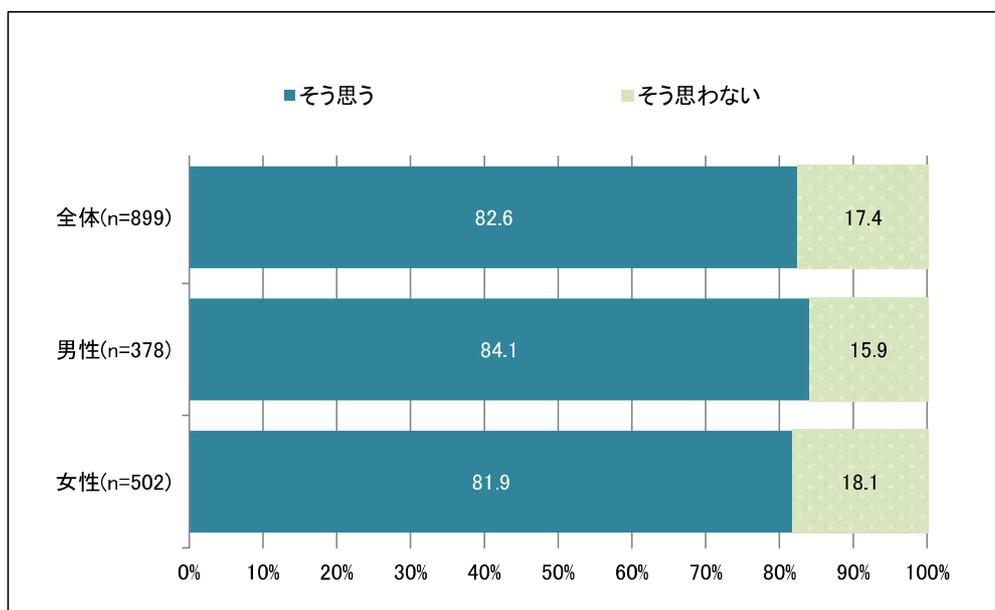
(図表IV-1-33)

○「子育て中の男性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う」については、全体では「そう思う」(72.7%)で7割を超えている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(76.2%)、女性では「そう思う」(70.3%)となっている。

(7) 子育て中の女性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899	743	156
		100.0	82.6	17.4
性別	男性	378	318	60
	女性	502	411	91
		100.0	81.9	18.1



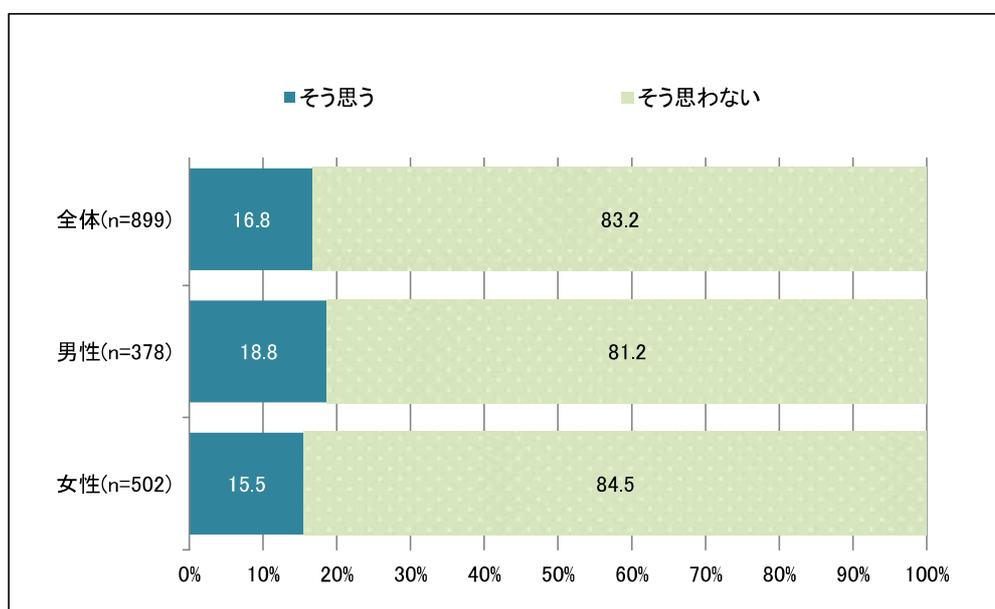
(図表IV-1-34)

○「子育て中の女性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う」については、全体では「そう思う」(82.6%)で8割を超えている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(84.1%)、女性では「そう思う」(81.9%)となっている。

(8) 介護休業は女性が取ったほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	151 16.8	748 83.2
性別	男性	378 100.0	71 18.8	307 81.2
	女性	502 100.0	78 15.5	424 84.5



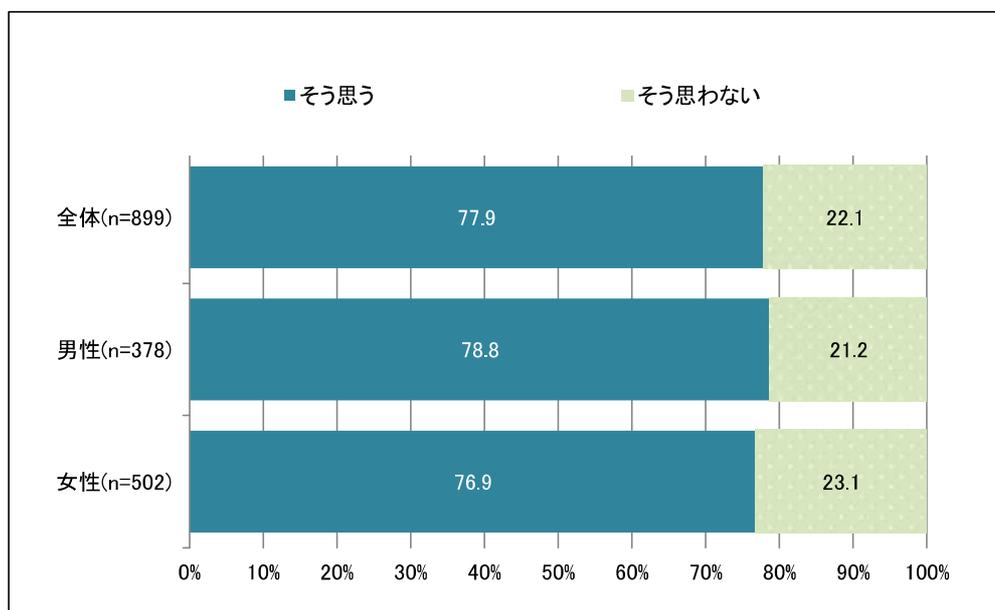
(図表IV-1-35)

○「介護休業は女性が取ったほうがいいと思う」については、全体では「そう思う」(16.8%)で2割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(18.8%)、女性では「そう思う」(15.5%)となっている。

(9) 介護中の男性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	700 77.9	199 22.1
性別	男性	378 100.0	298 78.8	80 21.2
	女性	502 100.0	386 76.9	116 23.1



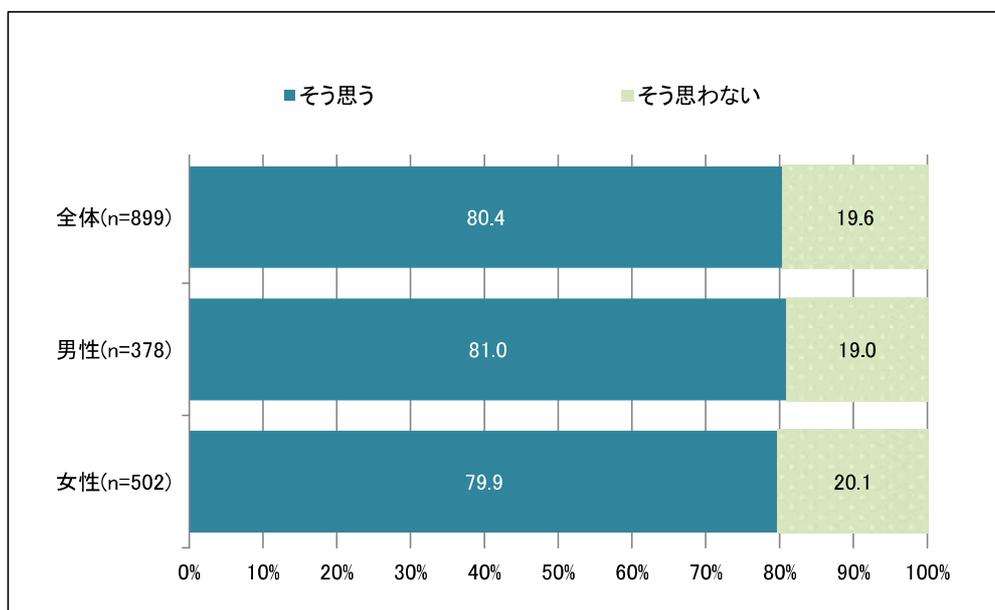
(図表IV-1-36)

○「介護中の男性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う」については、全体では「そう思う」(77.9%)で8割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(78.8%)、女性では「そう思う」(76.9%)となっている。

(10) 介護中の女性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899	723	176
		100.0	80.4	19.6
性別	男性	378	306	72
	女性	502	401	101
		100.0	79.9	20.1



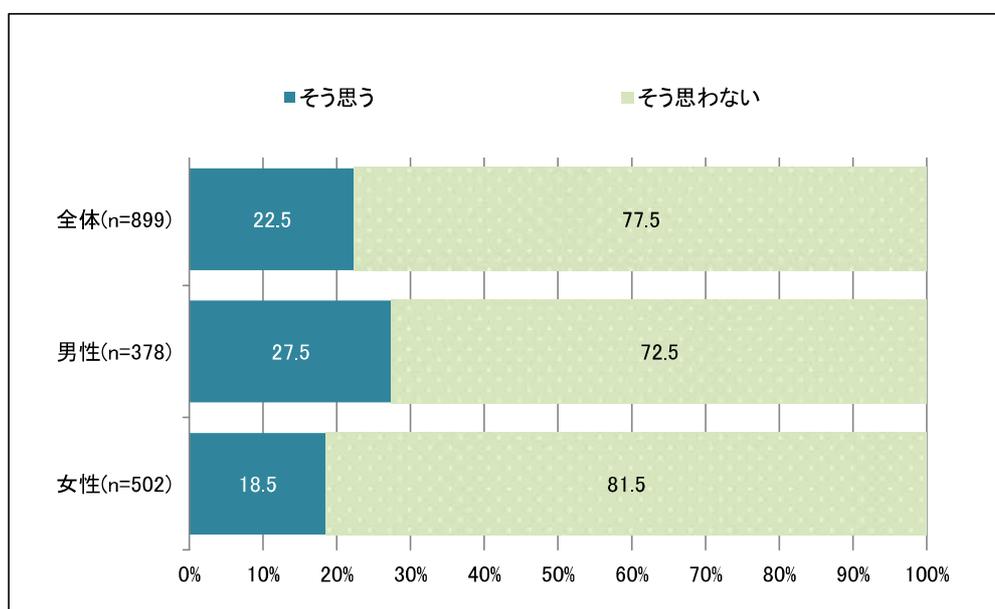
(図表IV-1-37)

○「介護中の女性教員には負担の多い業務をまかせないほうがいいと思う」については、全体では「そう思う」(80.4%)で8割となっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(81.0%)、女性では「そう思う」(79.9%)となっている。

(11) 性別により仕事の役割を分けたほうがいいと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899	202	697
		100.0	22.5	77.5
性別	男性	378	104	274
	女性	502	93	409
		100.0	18.5	81.5



(図表IV-1-38)

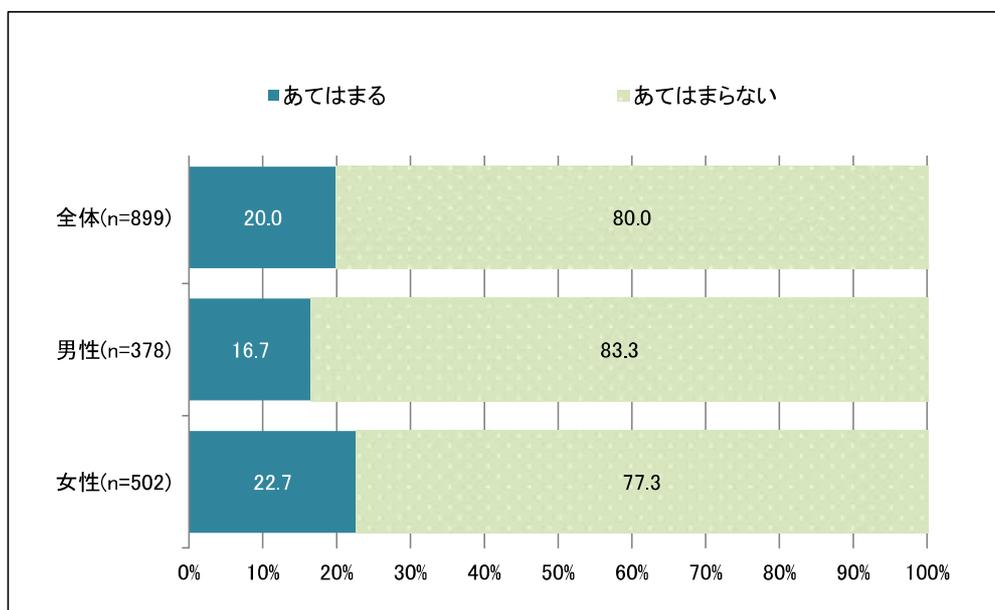
○「性別により仕事の役割を分けたほうがいいと思う」については、全体では《そう思う》(22.5%)で2割を超えている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(27.5%)、女性では《そう思う》(18.5%)となっている。

「性別により仕事の役割を分けたほうがいいと思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(12) 事務作業は女性教員に割り当てられることが多い (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	180 20.0	719 80.0
性別	男性	378 100.0	63 16.7	315 83.3
	女性	502 100.0	114 22.7	388 77.3



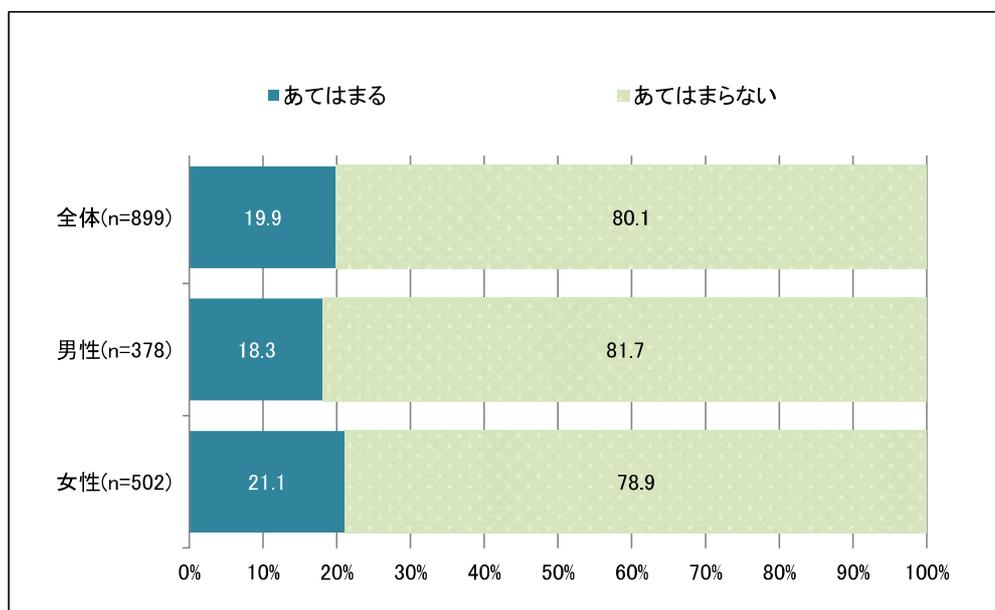
(図表IV-1-39)

○「事務作業は女性教員に割り当てられることが多い」については、全体では「あてはまる」(20.0%)で2割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(16.7%)、女性では「あてはまる」(22.7%)となっている。

(13) 重要な仕事は男性教員に任されていることが多い (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	179 19.9	720 80.1
性 別	男性	378 100.0	69 18.3	309 81.7
	女性	502 100.0	106 21.1	396 78.9



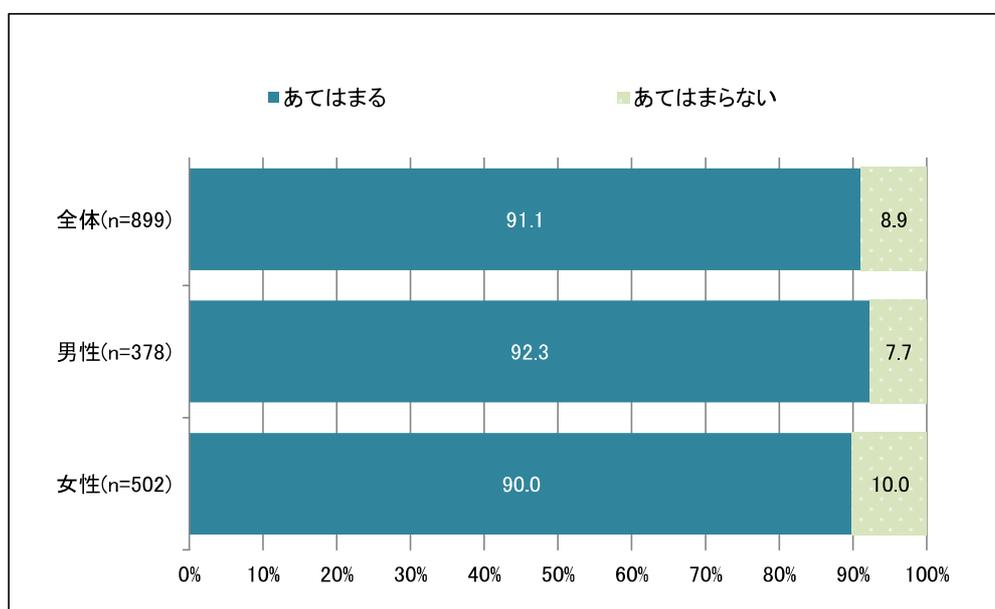
(図表IV-1-40)

○「重要な仕事は男性教員に任されていることが多い」については、全体では「あてはまる」(19.9%)で2割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(18.3%)、女性では「あてはまる」(21.1%)となっている。

(14) 力仕事は男性教員が担当していることが多い (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	819 91.1	80 8.9
性 別	男性	378 100.0	349 92.3	29 7.7
	女性	502 100.0	452 90.0	50 10.0



(図表IV-1-41)

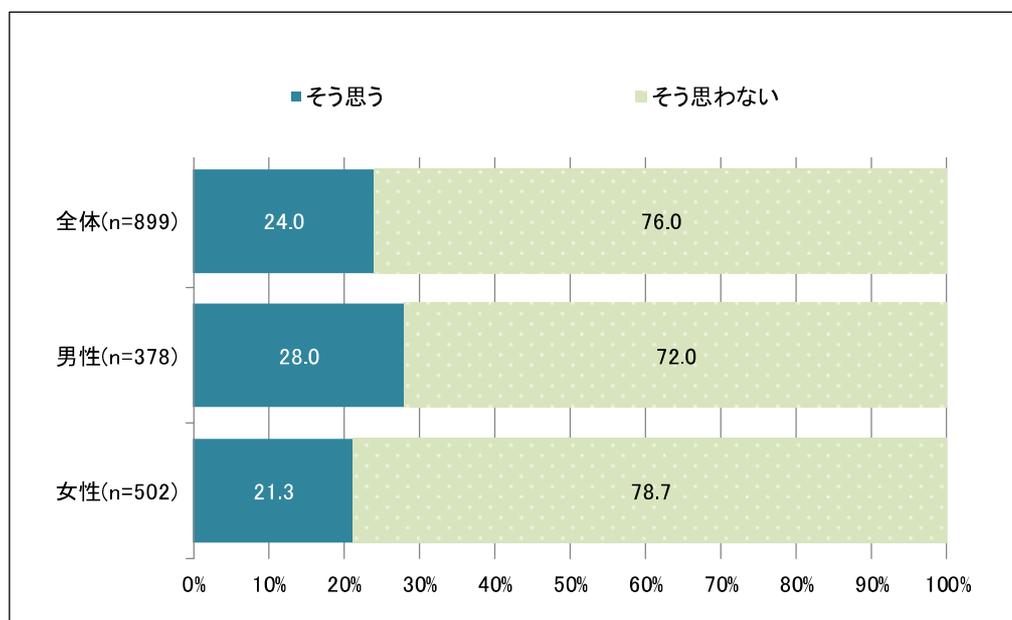
○「力仕事は男性教員が担当していることが多い」については、全体では「あてはまる」(91.1%)で9割を超えている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(92.3%)、女性では「あてはまる」(90.0%)となっている。

C 児童に関すること

(15) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	216 24.0	683 76.0
性別	男性	378 100.0	106 28.0	272 72.0
	女性	502 100.0	107 21.3	395 78.7



(図表IV-1-42)

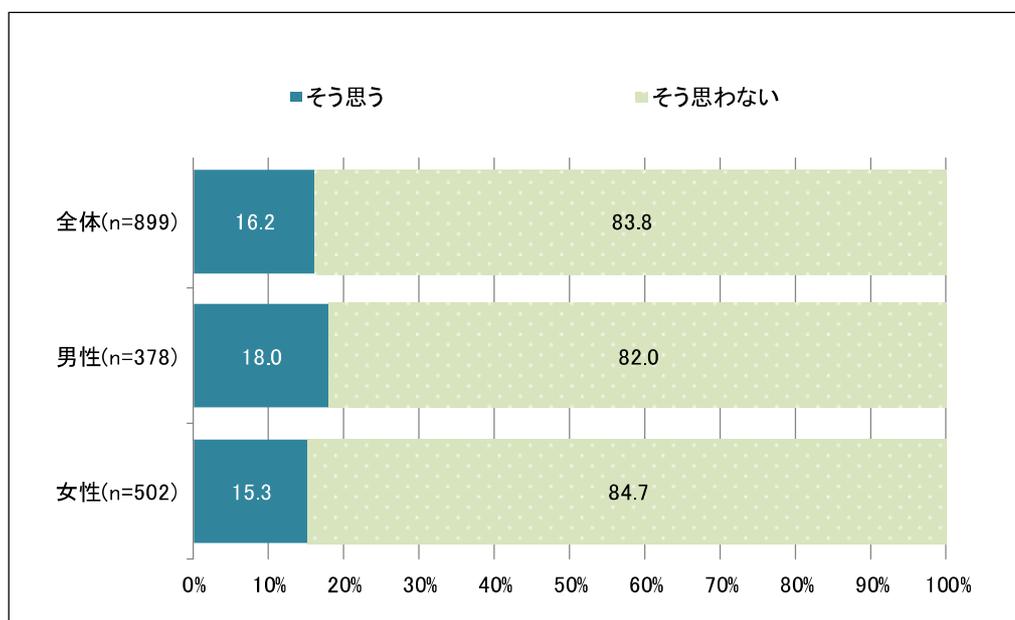
○「性別で教科の得意、不得意があると思う」については、全体では《そう思う》(24.0%)で2割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》(28.0%)、女性では《そう思う》(21.3%)となっている。

「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

(16) 理系科目は男の子の方が得意だと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	146 16.2	753 83.8
性別	男性	378 100.0	68 18.0	310 82.0
	女性	502 100.0	77 15.3	425 84.7



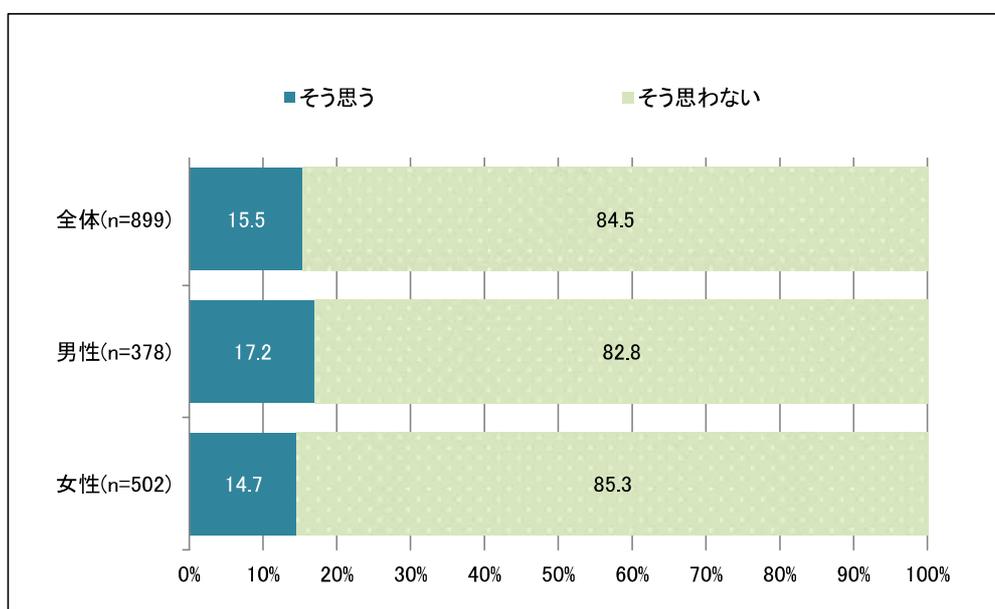
(図表IV-1-43)

○「理系科目は男の子の方が得意だと思う」については、全体では「そう思う」(16.2%)で1割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(18.0%)、女性では「そう思う」(15.3%)となっている。

(17) 文系科目は女の子の方が得意だと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	139 15.5	760 84.5
性別	男性	378 100.0	65 17.2	313 82.8
	女性	502 100.0	74 14.7	428 85.3



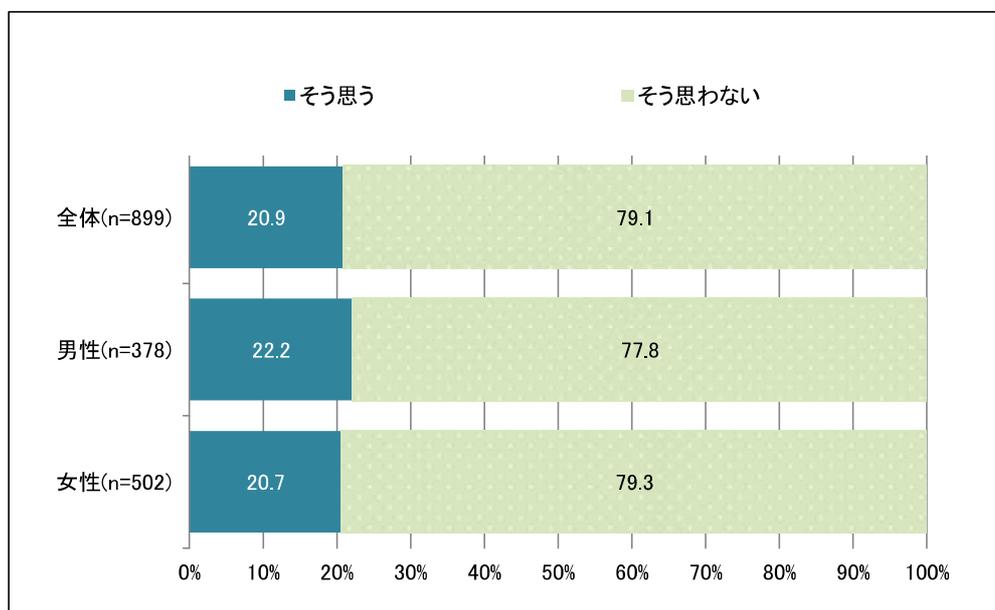
(図表IV-1-44)

○「文系科目は女の子の方が得意だと思う」については、全体では「そう思う」(15.5%)で1割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(17.2%)、女性では「そう思う」(14.7%)となっている。

(18) 家庭科は女の子の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	188 20.9	711 79.1
性別	男性	378 100.0	84 22.2	294 77.8
	女性	502 100.0	104 20.7	398 79.3



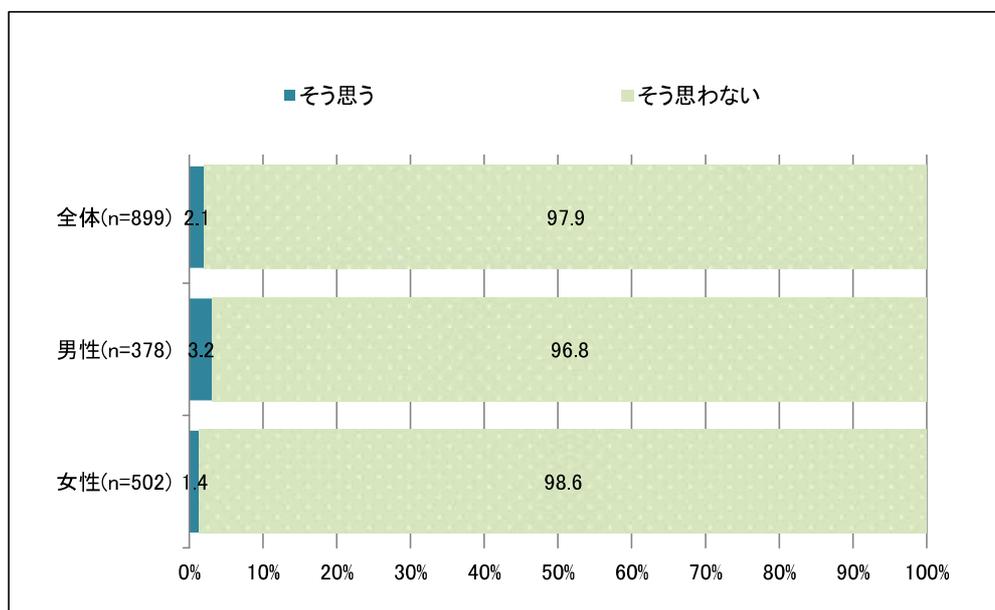
(図表IV-1-45)

○「家庭科は女の子の方が向いていると思う」については、全体では「そう思う」(20.9%)でほぼ2割となっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(22.2%)、女性では「そう思う」(20.7%)となっている。

(19) 学級代表の児童は男の子の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	19 2.1	880 97.9
性別	男性	378 100.0	12 3.2	366 96.8
	女性	502 100.0	7 1.4	495 98.6



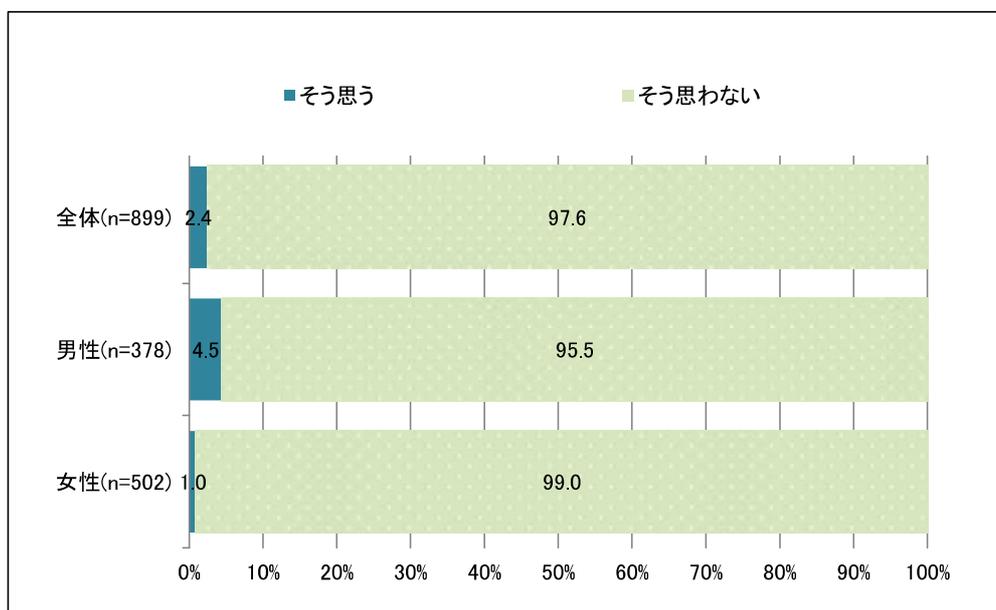
(図表IV-1-46)

○「学級代表の児童は男の子の方が向いていると思う」については、全体では「そう思う」(2.1%)でわずかとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(3.2%)、女性では「そう思う」(1.4%)となっている。

(20) 授業、班活動では、性別で児童の役割を決めたほうが良いと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	22 2.4	877 97.6
性別	男性	378 100.0	17 4.5	361 95.5
	女性	502 100.0	5 1.0	497 99.0



(図表IV-1-47)

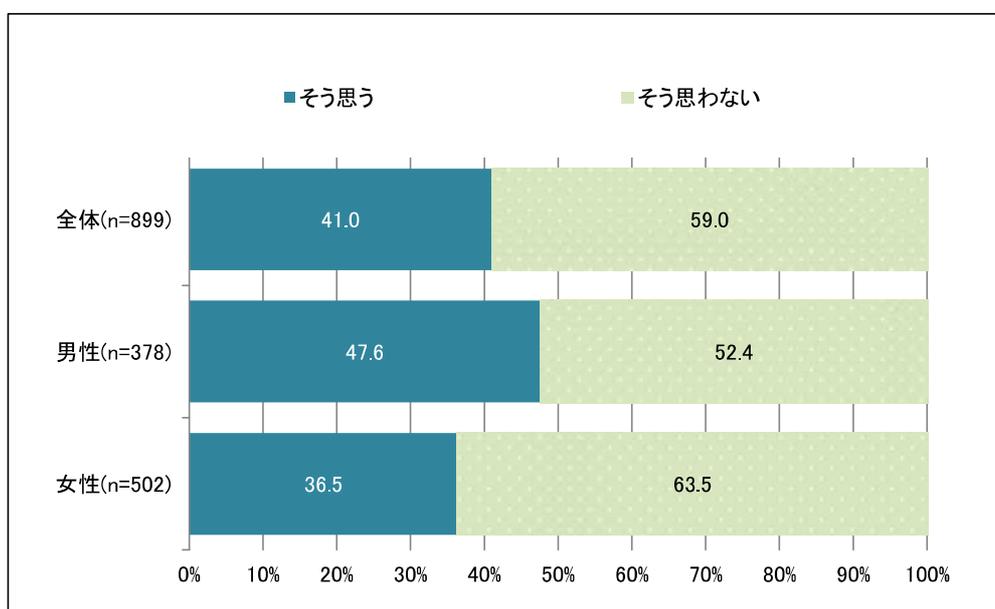
○「授業、班活動では、性別で児童の役割を決めたほうが良いと思う」については、全体では「そう思う」(2.4%)でわずかとなっている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(4.5%)、女性では「そう思う」(1.0%)となっている。

「授業、班活動では、性別で児童の役割を決めたほうが良いと思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(21) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	369 41.0	530 59.0
性別	男性	378 100.0	180 47.6	198 52.4
	女性	502 100.0	183 36.5	319 63.5



(図表IV-1-48)

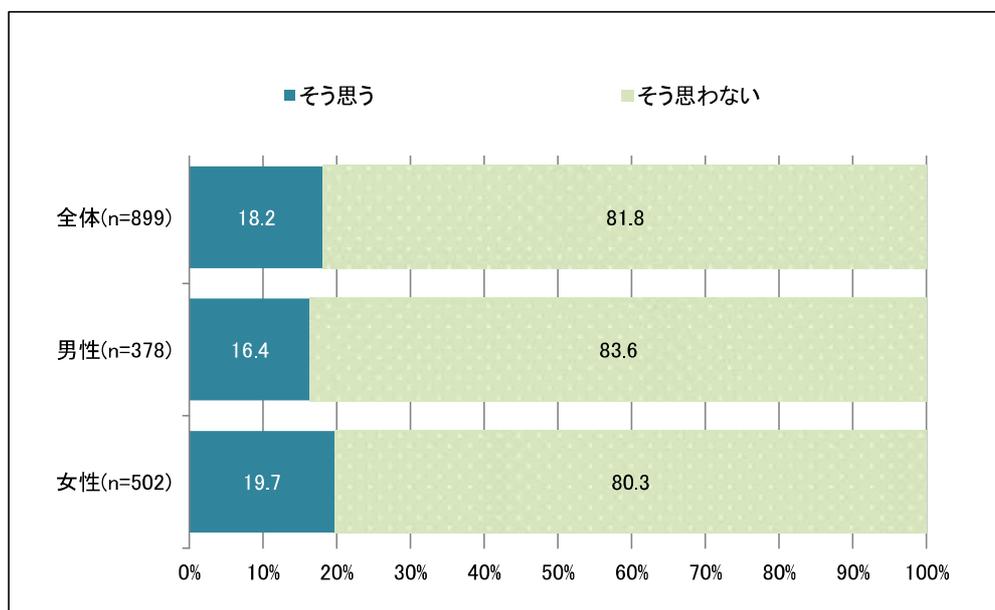
○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」については、全体では「そう思う」(41.0%)で4割を超えている。

性別でみると、男性では「そう思う」(47.6%)、女性では「そう思う」(36.5%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(22) グループ活動では女の子がサポート役に回ることが多いと思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899 100.0	164 18.2	735 81.8
性 別	男性	378 100.0	62 16.4	316 83.6
	女性	502 100.0	99 19.7	403 80.3



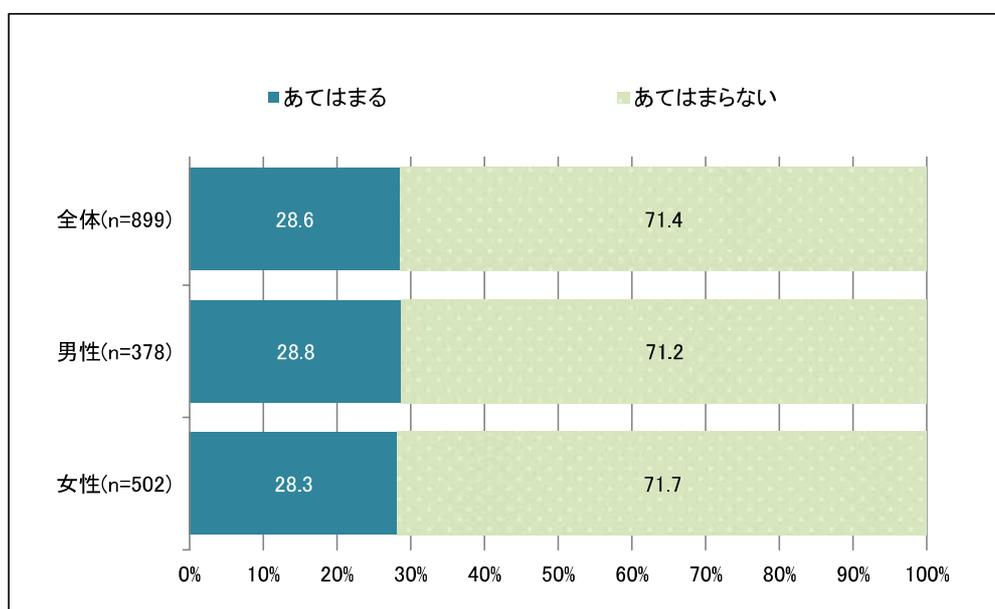
(図表IV-1-49)

○「グループ活動では女の子がサポート役に回ることが多いと思う」については、全体では「**そう思う**」(18.2%)で2割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「**そう思う**」(16.4%)、女性では「**そう思う**」(19.7%)となっている。

(23) 性別で将来の目標を考える児童の言動を目にしたことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	257 28.6	642 71.4
性 別	男性	378 100.0	109 28.8	269 71.2
	女性	502 100.0	142 28.3	360 71.7



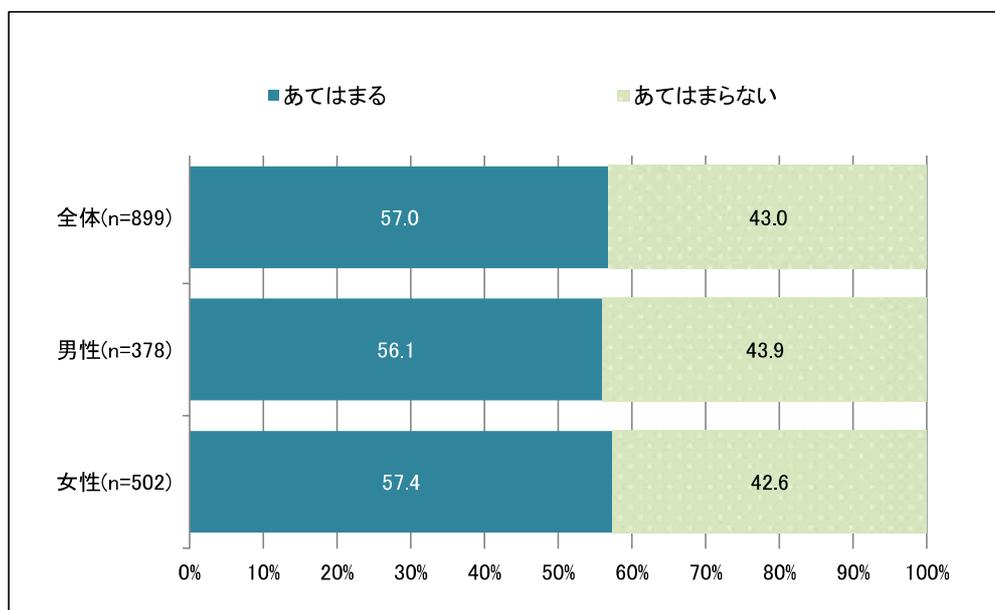
(図表IV-1-50)

○「性別で将来の目標を考える児童の言動を目にしたことがある」については、全体では「あてはまる」(28.6%)で3割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(28.8%)、女性では「あてはまる」(28.3%)となっている。

(24) 児童をみていて、「男らしさ」「女らしさ」を意識した言動を目にしたことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	512 57.0	387 43.0
性 別	男性	378 100.0	212 56.1	166 43.9
	女性	502 100.0	288 57.4	214 42.6



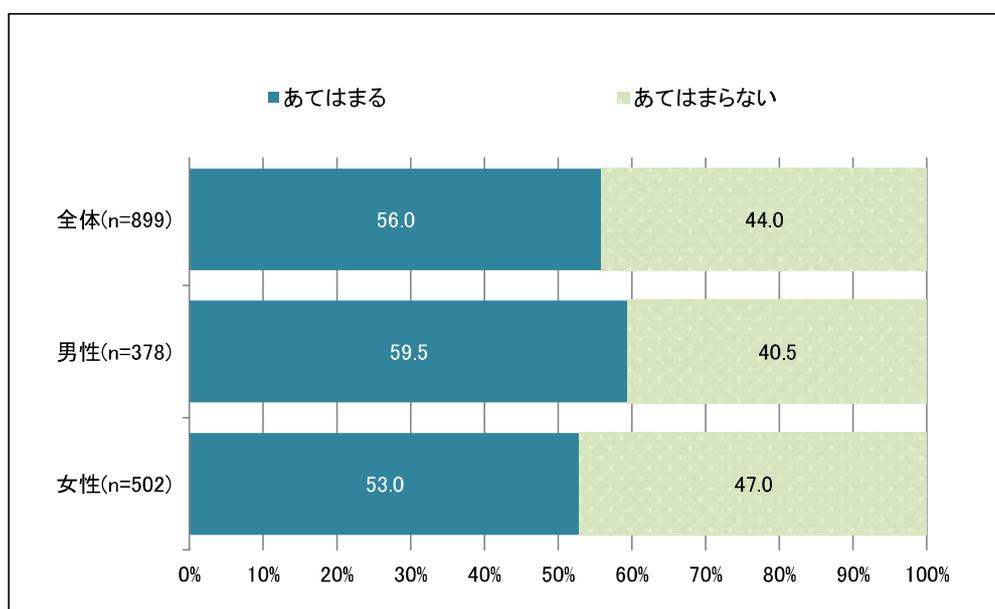
(図表IV-1-51)

○『児童をみていて、「男らしさ」「女らしさ」を意識した言動を目にしたことがある』については、全体では「あてはまる」(57.0%)で6割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(56.1%)、女性では「あてはまる」(57.4%)となっている。

(25) 児童の習い事を聞いていると、性別で違いがあると思う (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	503 56.0	396 44.0
性 別	男性	378 100.0	225 59.5	153 40.5
	女性	502 100.0	266 53.0	236 47.0



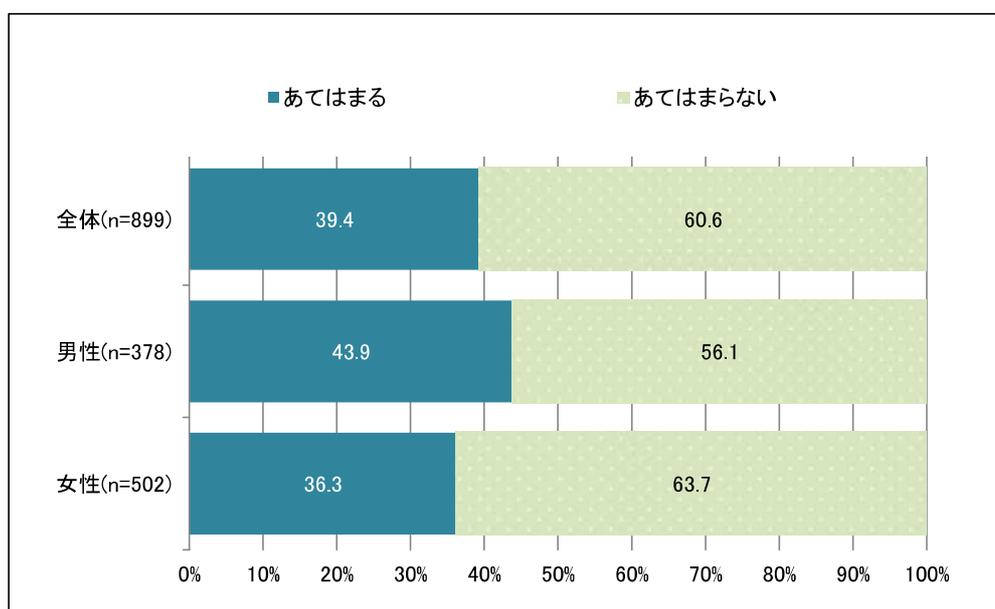
(図表IV-1-52)

○「児童の習い事を聞いていると、性別で違いがあると思う」については、全体では「あてはまる」(56.0%)で5割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(59.5%)、女性では「あてはまる」(53.0%)となっている。

(26) 楽器や絵画などの習い事をするのは女の子の方が多(S A)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	354 39.4	545 60.6
性 別	男性	378 100.0	166 43.9	212 56.1
	女性	502 100.0	182 36.3	320 63.7



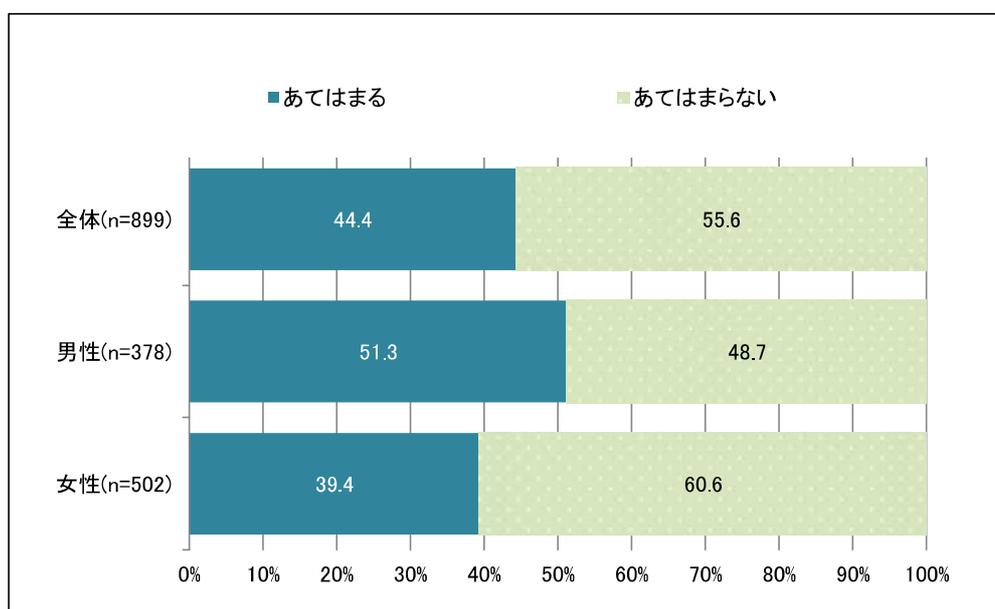
(図表IV-1-53)

○「楽器や絵画などの習い事をするのは女の子の方が多」については、全体では「あてはまる」(39.4%)でほぼ4割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(43.9%)、女性では「あてはまる」(36.3%)となっている。

(27) スポーツなどの習い事をするのは男の子の方が多い (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	399 44.4	500 55.6
性別	男性	378 100.0	194 51.3	184 48.7
	女性	502 100.0	198 39.4	304 60.6



(図表IV-1-54)

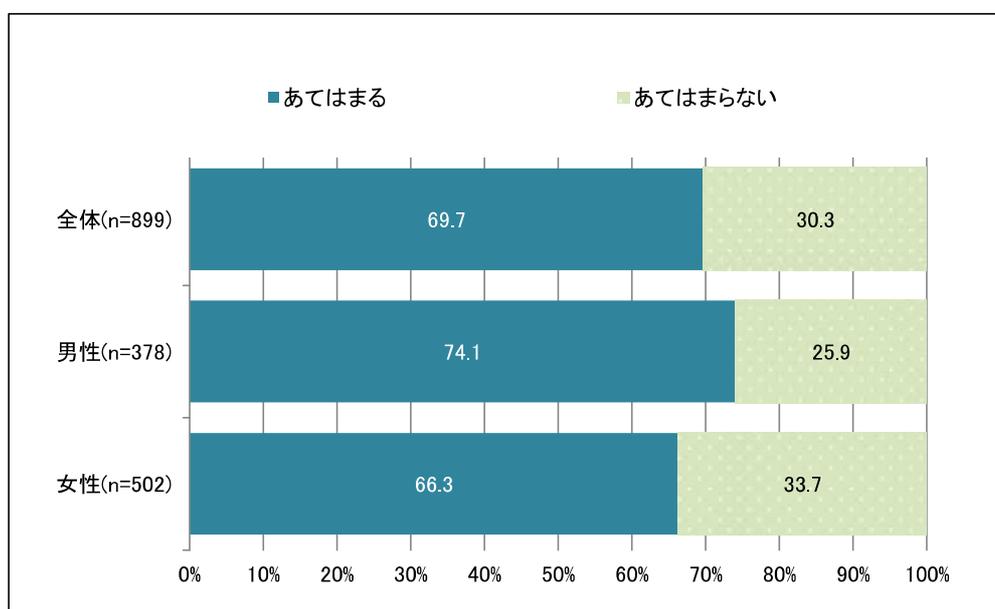
○「スポーツなどの習い事をするのは男の子の方が多い」については、全体では「あてはまる」(44.4%)で4割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(51.3%)、女性では「あてはまる」(39.4%)となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「スポーツなどの習い事をするのは男の子の方が多い」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

(28) 性別により遊び方が違う傾向にある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	627 69.7	272 30.3
性 別	男性	378 100.0	280 74.1	98 25.9
	女性	502 100.0	333 66.3	169 33.7



(図表IV-1-55)

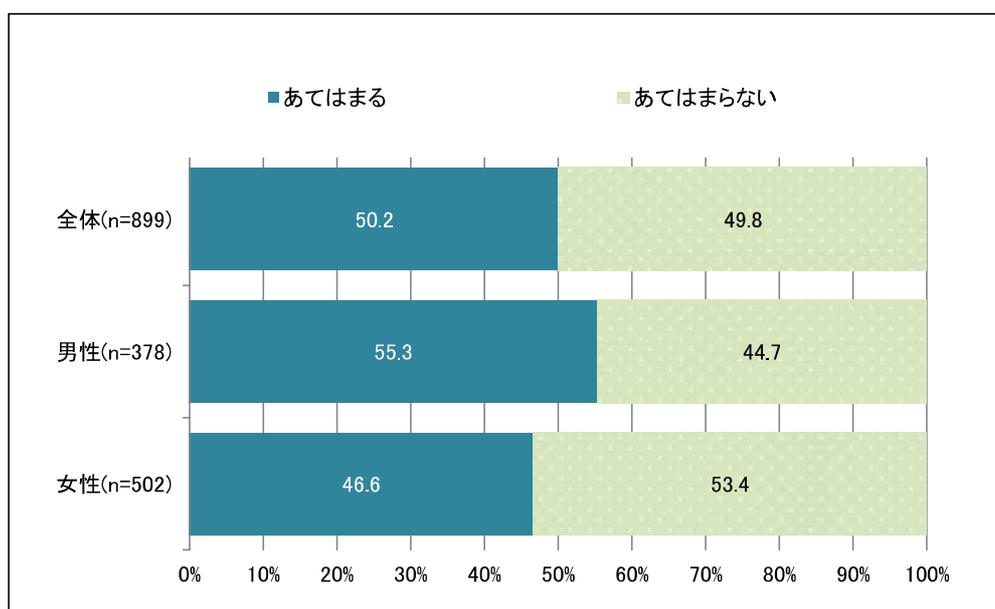
○「性別により遊び方が違う傾向にある」については、全体では「あてはまる」(69.7%)で7割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(74.1%)、女性では「あてはまる」(66.3%)となっている。

「性別により遊び方が違う傾向にある」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

(29) 児童をみていると、「男の子らしい色」「女の子らしい色」を意識している傾向にある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	451 50.2	448 49.8
性別	男性	378 100.0	209 55.3	169 44.7
	女性	502 100.0	234 46.6	268 53.4



(図表IV-1-56)

○『児童をみていると、「男の子らしい色」「女の子らしい色」を意識している傾向にある』については、全体では「あてはまる」(50.2%)で5割となっている。

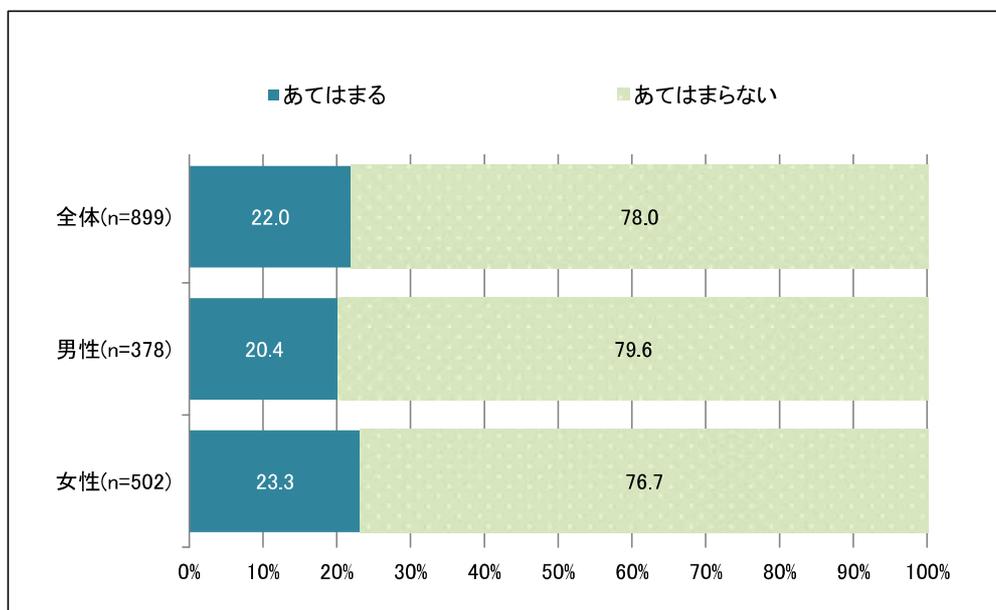
性別で見ると、男性では「あてはまる」(55.3%)、女性では「あてはまる」(46.6%)となっている。

『児童をみていると、「男の子らしい色」「女の子らしい色」を意識している傾向にある』について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$)が見られた。

D 保護者に関すること

(30) 「性別」によって児童の進路を考えている発言が保護者よりあった (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	198 22.0	701 78.0
性別	男性	378 100.0	77 20.4	301 79.6
	女性	502 100.0	117 23.3	385 76.7



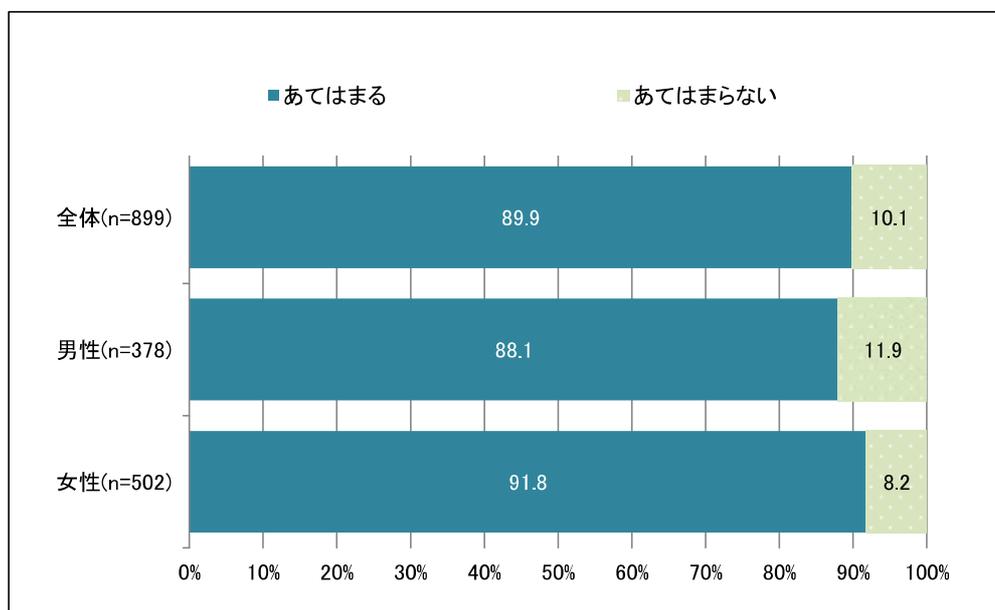
(図表IV-1-57)

○『「性別」によって児童の進路を考えている発言が保護者よりあった』については、全体では「あてはまる」(22.0%)で2割を超えている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(20.4%)、女性では「あてはまる」(23.3%)となっている。

(31) 学校行事は母親の参加が多い (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	808 89.9	91 10.1
性 別	男性	378 100.0	333 88.1	45 11.9
	女性	502 100.0	461 91.8	41 8.2



(図表IV-1-58)

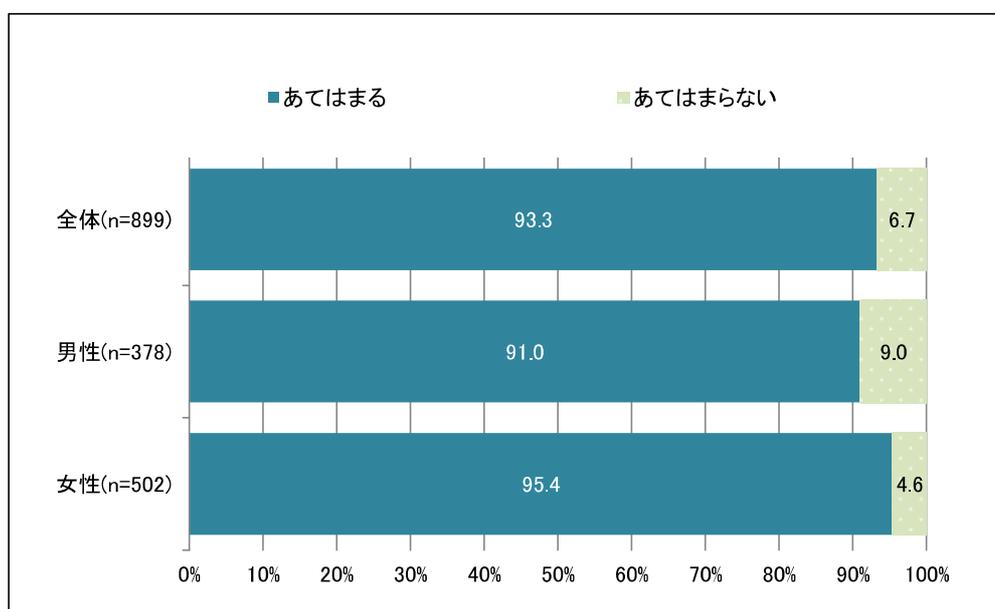
○「学校行事は母親の参加が多い」については、全体では「あてはまる」(89.9%)で9割となっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(88.1%)、女性では「あてはまる」(91.8%)となっている。

「学校行事は母親の参加が多い」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.05$) が見られた。

(32) 学校関係の児童の身の回りの準備は母親がやっていることが多い (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	839 93.3	60 6.7
性別	男性	378 100.0	344 91.0	34 9.0
	女性	502 100.0	479 95.4	23 4.6



(図表IV-1-59)

○「学校関係の児童の身の回りの準備は母親がやっていることが多い」については、全体では「あてはまる」(93.3%)で9割を超えている。

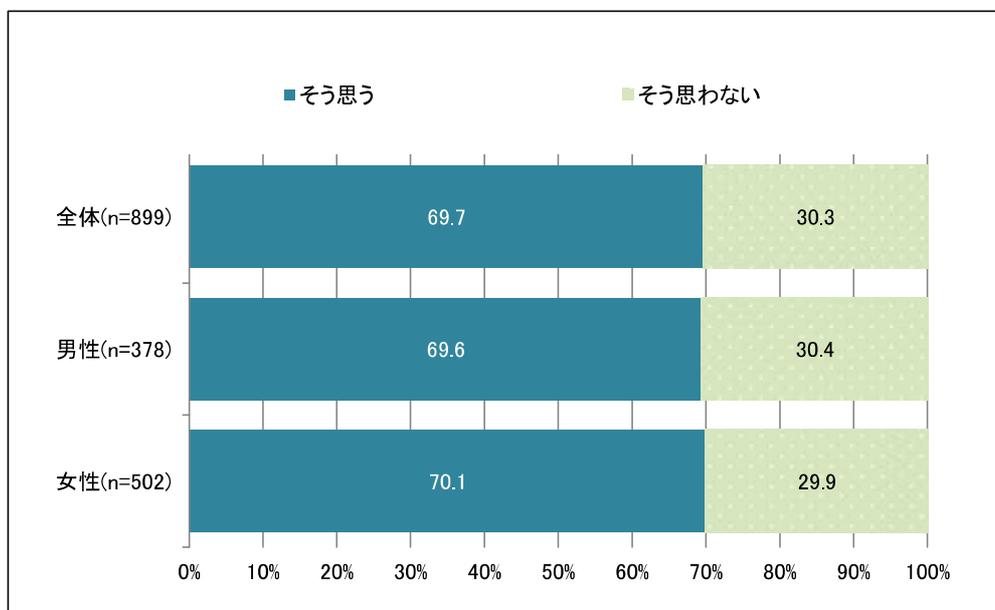
性別で見ると、男性では「あてはまる」(91.0%)、女性では「あてはまる」(95.4%)となっている。

「学校関係の児童の身の回りの準備は母親がやっていることが多い」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。

E 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度など

(33) 学校での指導等において無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している（SA）

		計	そう 思う	そう 思わ ない
全 体		899 100.0	627 69.7	272 30.3
性 別	男性	378 100.0	263 69.6	115 30.4
	女性	502 100.0	352 70.1	150 29.9



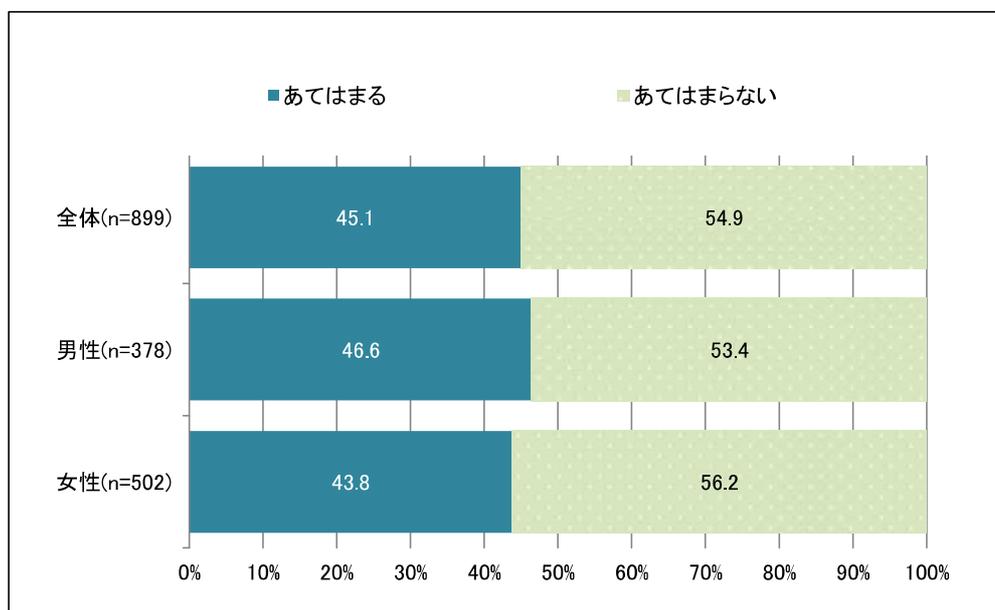
(図表IV-1-60)

○「学校での指導等において無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している」については、全体では《そう思う》（69.7%）で7割となっている。

性別で見ると、男性では《そう思う》（69.6%）、女性では《そう思う》（70.1%）となっている。

(34) 教員間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について話をしたことがある(SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		899 100.0	405 45.1	494 54.9
性別	男性	378 100.0	176 46.6	202 53.4
	女性	502 100.0	220 43.8	282 56.2



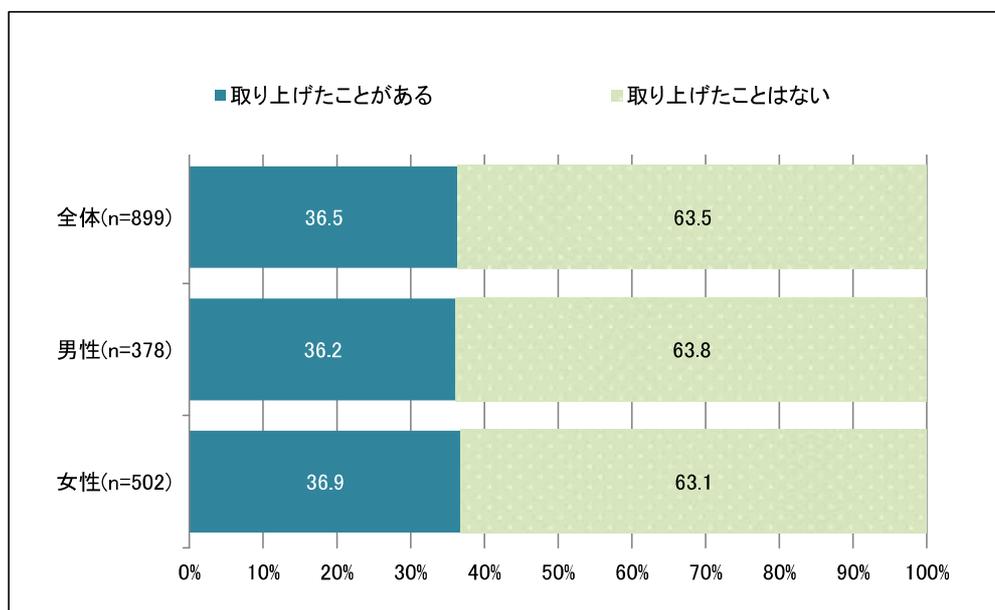
(図表IV-1-61)

○「教員間で無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について話をしたことがある」については、全体では「あてはまる」(45.1%)で4割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「あてはまる」(46.6%)、女性では「あてはまる」(43.8%)となっている。

(35) 子供への指導で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を取り上げたことがある（SA）

		計	あ 取 り 上 げ た こ と が	な 取 り 上 げ た こ と は
全 体		899 100.0	328 36.5	571 63.5
性 別	男性	378 100.0	137 36.2	241 63.8
	女性	502 100.0	185 36.9	317 63.1



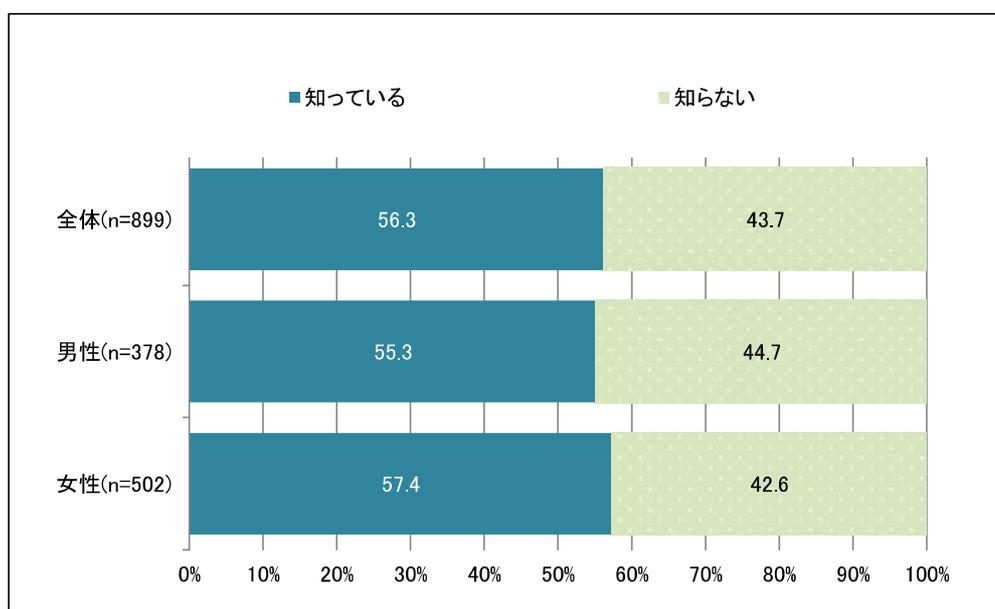
(図表IV-1-62)

○「子供への指導で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を取り上げたことがある」については、全体では「取り上げたことがある」（36.5%）で4割近くとなっている。

性別で見ると、男性では「取り上げたことがある」（36.2%）、女性では「取り上げたことがある」（36.9%）となっている。

(36) 無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について知っていますか(SA)

		計	知っている	知らない
全 体		899 100.0	506 56.3	393 43.7
性別	男性	378 100.0	209 55.3	169 44.7
	女性	502 100.0	288 57.4	214 42.6



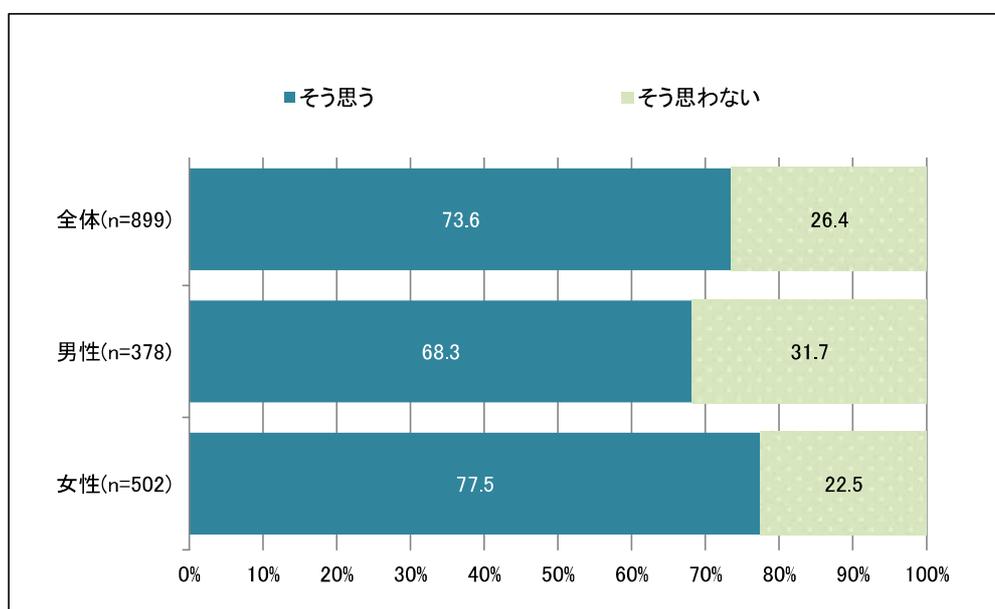
(図表IV-1-63)

○「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について知っていますか」については、全体では「知っている」(56.3%)で5割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「知っている」(55.3%)、女性では「知っている」(57.4%)となっている。

(37) (自己啓発として) 無意識の思い込みについて、研修などがあれば受講したいか (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		899	662	237
		100.0	73.6	26.4
性別	男性	378	258	120
	女性	502	389	113
		100.0	77.5	22.5



(図表IV-1-64)

○「(自己啓発として) 無意識の思い込みについて、研修などがあれば受講したいか」については、全体では「そう思う」(73.6%)が7割を超えている。

性別で見ると、男性では「そう思う」(68.3%)、女性では「そう思う」(77.5%)となっている。

「(自己啓発として)無意識の思い込みについて、研修などがあれば受講したいか」について、性別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.01$) が見られた。